会　報

No.63（1999年5月）

目　次

◆新会長「会員のみなさまへの手紙」 …… 1
◆第10期、第11期 第1回合同評議員会報告 …… 3
◆新役員名簿 …… 4
◆1998年度会計収支決算報告 …… 5
◆1998年度会計監査報告 …… 5
◆第22回（1999年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その2） …… 6
◆学会費（年度会費）納入についてのお願い …… 32
◆入会申込みの手続きについて …… 32
◆学術賞、研究助成の本学会推薦について …… 33
◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ …… 34
○千里ライフサイエンス技術講習会第19回「DNA チップの最新技術（I）」
○千里ライフサイエンス技術講習会第20回「プロテオミクス解析」
○千里ライフサイエンスセミナー「免疫システムとケモカイン」
○第9回広島がんセミナー国際シンポジウム
○第9回アンチセンスシンポジウム
◆その他のお知らせ …… 35
○日本学術会議のホームページ
○BBRC Editor 増員について
○アマシャム ファルマシア バイオテク アンド サイエンス賞
○ポスドク募集

日本分子生物学会
(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆会員のみなさまへの会長からの手紙

第11期の日本分子生物学会の評議員と新運営体制が別表のように決まりました。これからの２年間よろしくお願いします。今期の組織上の変化は編集幹事が２名となり、鍋島陽一教授が新任に、前任の山本正幸教授にはさらにもう１期留任をお願いしました。大石道夫前会長からの引き継ぎでも強調されたジャーナルの問題にしっかりと対応するためです。

本年度の日本分子生物学会年会は西本毅治教授を年会長とする組織委員会によって12月７日～10日福岡ドームを中心会場として開催されます。ドームでのポスターセッションを今から大変楽しみにしてる会員の方々も多いのではないでしょうか。

日本分子生物学会は1979年４月１日に発足しました。それから20年がたち、現在約１万人（1999年３月10日現在個人会員9,982名他に賛助会員42社）の会員数に達しました。瞬間風速的には１万人を越えたこともあるそうです。分子生物学の発展という観点から見て会員数の増加は、大変喜ぶべき出来事であると思いますが、一方で学会自体の運営にはいくつかの問題が生じてきているように感じられます。第11期の会長になるにあたって、そのあたりの事情をできるだけ「ざっくばらん」に説明して、会員のみなさまのご意見を是非伺いたく、この手紙を書いている次第です。

運営組織について

第一の問題は、学会の運営に関わる人数が少なすぎるのではないか、という点です。年会の運営を別として、学会運営は現在わずか20人程度の評議員と数人の幹事によって行われているのです。初期の数百人程度の会員数には適切な運営規模だとは思いますが、１万人という会員の多様な願いや希望をかなえるうえで役立つためには、もっと運営組織を広く、力強いものにする必要はないでしょうか。

４月初めに開かれた前期と今期の合同評議員会で、この点は話題になりました。学会の会員のなかで現に研究チームを率いている方々には、例えば「協議員」などという資格を持っていただき、学会の活動により積極的に参加してもらえないだろうか、という意見も出ました。科研費の審査員の選出なども大切ですが、学会の社会との接触はこれからもますます増大すると考えられ、いろいろな役割を担っていただける多様な人材が必要なことは明らかです。研究のみならず教育やいろいろな問題で、社会に対する提言を行っていくことはわれわれが研究費を今後も使って研究活動を続けるうえで非常に大切だと思います。しかし、一方で学会の使命は年会を活発にやればいいので、それ以外の活動はあまりする必要もないし、するべきでないという意見も根強くあることは事実です。しかし、現状の組織ではいろいろな要請があってもあまり対応ができない状態なので、何らかの対策を講じる必要はどうしてもあると思われます。

学会誌について

日本分子生物学会にはオフィシャルなジャーナルはありません。しかし、Genes to Cells 誌（Blackwell 社より刊行）を大いに積極的にサポートしていこうということが決まっています。Genes to Cells 誌は富澤純一編集長のもとに国際的にも知名度の高い多くの Associate editors を擁して、創刊後３年が経過し、現在４巻が毎月刊行されています。水準の高い論文やレビューが発表されていることはみなさまご存じのことと思います。

Genes to Cells 誌の問題は１万人の会員数という事実とは裏腹に購読者数が驚くほど少ないということです。また、論文の投稿が多くないのも悩みの種です。率直にいって日本分子生物学会の多くの会員は Genes to Cells 誌に対して「無関心、冷たい」というのがわたくしの率直な印象です。会員の10人に１人すらも購読していただけないというのが現状ですから。日本の学会を基礎にした先発のジャーナルのなかには会員に強制的に購入していただくという策をとったところもありますが、日本分子生物学会の現在の対処は会員の自主的な判断にお願いしているわけですので、是非みなさまにも考えていただき

たいのです。

すこし俗なたとえ話をしたいと思います。わたくしのGenes to Cellsの個人的な見方は、日本の分子生物学者にとって、米国の学者にとってのProc. Nat. Acad. Sci. のようなものになることを一つの目標としてもいいのではないかと思っています。日本人の分子生物学者にとって、「駆け込み寺」のようなジャーナルがないために、ずいぶん辛い思いをした方々は多いのではないでしょうか。そのためには、Genes to Cellsをみなさまに育ててもらう以外に現状では方法がありません。えこひいきは決してしないけれども、しかし十分に好意的に事情を理解してもらえる、しかも迅速に論文が扱われるジャーナルが日本の分子生物学者にとってあってしかるべきではないでしょうか。実際にGenes to Cellsはすでにそのような役割を演じるに十分な存在になりつつあることをご存じでしょうか。

このような問題は日本人にとっての国旗と国歌への関わり方に似ていますね。学問の世界で「愛郷心」を発揮することを避けたり、恥ずかしがったりしていてよいのでしょうか。もっと、われわれは研究の世界で愛郷心を大いに発揮すべきではないでしょうか？　それが、外国からも尊敬される一番の早道だとわたくしは信じています。総体としての日本の分子生物学の成果とレベルはきわめて高いものに達しているのに、それに見合う一般的な評価が国内からも国外からも出てこないのは愛郷心の欠如にあると、わたくしは平素思っています。若い会員の方々にもGenes to Cellsのサポーターに是非なっていただきたいのです。そのために、Genes to Cellsのエディター達も富澤編集長とともに大いに努力する所存です。まず、是非Genes to Cellsを読んでいただき、是非ご意見を下さい。ちょっとした意見でも、また厳しい意見でも何でも結構です。具体的な改善策大いに歓迎です。そして、もし可能なら、これはという論文を投稿していただきたいのです。

申し遅れましたが、2000年を目標に会員なら誰でも無料でオンラインでGenes to Cellsにアクセスできるように編集幹事が努力しています。

学会のホームページについて

インターネットに日本分子生物学会のホームページを作るべく磯野克己教授に協力をお願いして計画中です。会員の入会、退会や年会の申込みを容易にし、いろいろな学会、行事や、求人求職など有用な情報に迅速にアクセスしてレスポンスできるようなホームページを作ってほしいという要望は会員のみなさまに当然あると思います。現在、鋭意準備中ですのでご期待下さい。ホームページにあったら便利という項目など是非ご意見をお聞かせ下さい。イラスト、デザインなど会員にひろく案を募るようなことにもなると聞いております。言語は日本語だけか、英語版も作るかなど、決めることもたくさんあります。また、ホームページ上の広告についても賛助会員のご参加をお願いするようなことがあるかもしれません。

グローバリティとローカリティ

日本分子生物学会は国内の任意団体で、国際的な学会連合の一部のようなかたちを取っておりません。独立独歩で、ある意味ではいつでも解散できるような簡単な組織形態をとっております。その点は社団法人の日本生化学会のしっかりした組織とは大きく異なります。

日本分子生物学会は毎年行う年会が成功すれば、その役目の大半は果たせていると思われていた時期は相当長いし、現在でもそのように感じている方は多いかもしれません。そういう点で、日本分子生物学会はあくまでローカルな組織で、国際的な任務は特に要求されていません。そこで疑問が出てきます。日本分子生物学会はこれからもこの国内向けのスタイルでやっていくのか、いくべきなのか、そのへんを考える必要が出てきているようです。いまの組織のローカリティの良さを温存すべきか、それとも国際化をより強調する方向で運営していくべきか、是非ご意見をお聞きしたいところです。

もしも日本分子生物学会での活動のすべての使用言語を英語にしてしまえば、いわゆるグローバリズムの傾向の先端に立つことになります。つまり誰でも（英語がわかれば）参加しアクセスできます。日

本語で公開してもなかなかグローバリズムになれないのは、日本語をわかる人々の絶対数が世界的には少ないという単純な事実に基づくのですが。しかし、一方で日本語ならよく理解できる発表なのに英語だったのでさっぱりわからなかったというようなこともあります。会場にひとり日本語をわからない人がいたら英語で発表せよという意見と、残り99人の日本人のうちの相当数は英語でしゃべれないし、また聞いてもわからないのだから当然日本語にすべきという、二つのタイプの意見をもっとたたかわせる必要があるようです。ある著名な米国の研究者からは年会のシンポジウムのスピーカーで招待された折りに、年会の使用言語が英語になるまでは決して参加しないという返事が来たことがあります。外国からの見る目はなかなか挑戦的だし、厳しいものです。このあたりについてももっと議論がなされるべきだと思います。

学会の目的は会則２条に「分子生物学に関する研究・教育を推進し、我が国における分子生物学の発展に寄与することを目的とする」とあります。また、３条に事業として「学術集会の開催、会報の発行、その他前条（２条）の目的を達成するために必要な事業を行う」とあります。わたくしの個人的な意見としてはこのような目的と事業を変える必要は現在まったくないが、近年の電子ネットワークの発展の特性を十分に生かしてグローバルなレベルでも日本分子生物学会の活動が見えるように努力していきたいと考えています。

会員にとって役に立つこと、ためになることを行っていくのが本会の存在意義の一つであることはいうまでもありませんが、そのために海外の研究者がもっともっと日本の研究を知り交流を深めることが非常に大切だと思います。そのために研究自体のグローバリズムには誰も反対しないでしょう。問題は日本分子生物学会の活動をどの程度その方向に向けていくのか、学会活動のグローバリティを高めることがそもそもどの程度可能なのか、またどこまでも高めていくことが本当に良いことなのか、そのあたりの率直な意見を会員のみなさまからお聞きしたいものです。

ご意見はMBSJ@kozo.biophys.kyoto-u.ac.jpにメールでお送り下さい。直ちにお返事はできませんが、できうる限りの対応はさせていただきます。

柳田充弘（第11期 日本分子生物学会 会長）

◆日本分子生物学会 第10期、第11期 第１回合同評議員会報告

日　時：1999年４月１日（木）15：30～19：00
場　所：東京ステーションホテル「藤の間」
出席者：第11期
　池田日出男、石浜　明*、磯野克己、大塚栄子*、大坪栄一、小川智子、勝木元也、杉野明雄*、谷口維紹*、辻本賀英*、鍋島陽一、花岡文雄、本庶　佑、柳田充弘*、山本　雅、山本正幸
　（*第10期より）
　［欠席者：近藤寿人*、長田重一*、松原謙一*、吉川　寛*］
　第10期
　大石道夫、饗場弘二、品川日出夫（評議員）、丹羽修身（庶務幹事）
議　事：

1. 大石会長より、第10期の日本分子生物学会の主な活動について報告がなされた。懸案の日本生化学会との関係については2006年のIUBMB総会招致など協力すべきことは多いが、団体の合併問題については、両団体の組織形態の違いなど困難な問題が存在し、今後の検討課題として残された。雑誌Genes to Cellsの購読数と投稿論文数の増加のために引き続き努力されたことが報告された。

2.　丹羽庶務幹事より第10期の実施業務が報告された。また、会員数の増加に伴い入会手続きがオンライン化されることになること、生物科学・学会連合の活動について報告がなされた。
3.　花岡会計幹事より1998年度の会計収支決算報告がなされた（別掲：会計収支決算報告）。
4.　本庶組織委員長から2006年のIUBMB総会について、日本生化学会との協力で招致するとの方向で活動が進んでおり、組織の概要と主な人選について固まりつつあること、開催地は京都とすることなどの報告があった。
5.　第11期評議員の互選により、第11期会長に柳田充弘氏を選任した。
6.　第11期副議長に小川智子氏を選出し、会計監査に品川日出夫、武田俊一氏を選んだ。さらに各幹事、委員の委嘱・選出がなされた（別掲：新役員名簿）。なお、編集幹事については2名とすることとし、このため日本分子生物学会細則第14条第3項を変更することを議決した。
7.　山本編集幹事（第10期・第11期）よりGenes to Cellsのオンライン購読について、2000年以降全会員が自由にオンラインアクセスできるようにするためBlackwell社と学会が一括契約する案が紹介され、その方向で進めることで合意をみた。
8.　杉野将来計画委員会委員長（第10期・第11期）より学会としてAMBOコースの支援を行いたいとの提案がなされ、意義なく認められた。

◆新役員名簿

会　長
柳田充弘（京大・生命科学）

評議員（50音順）

池田日出男（北里研）
大塚　栄子（北大・薬）
小川　智子（国立遺伝研）
近藤　寿人（阪大・細生工セ）
谷口　維紹（東大・医）
長田　重一（阪大・医）
松原　謙一（奈良先端大・バイオ）
山本　　雅（東大・医科研）
石浜　　明（国立遺伝研）
大坪　栄一（東大・分生研）
勝木　元也（東大・医科研）
杉野　明雄（阪大・微研）
辻本　賀英（阪大・医）
本庶　　佑（京大・医）
柳田　充弘（京大・生命科学）
吉川　　寛（奈良先端大・バイオ）

各幹事

庶務幹事	西田　栄介（京大・生命科学）
編集幹事	鍋島　陽一（京大・医）、山本　正幸（東大・理）
会計幹事	磯野　克己（神大・理）
集会幹事	小林　英紀（九大・医）、花岡　文雄（阪大・細生工セ）
会計監査	品川日出夫（阪大・微研）、武田　俊一（京大・医）
将来計画委員	杉野　明雄（阪大・微研、委員長）、新井　賢一（東大・医科研）、押村　光男（鳥取大・医）、秋山　　徹（東大・分生研）、石浜　　明（国立遺伝研）、吉川　　寛（奈良先端大・バイオ）
選考委員	花岡　文雄（阪大・細生工セ、委員長）、辻本　賀英（阪大・医）、杉野　明雄（阪大・微研）、山本　　雅（東大・医科研）、大坪　栄一（東大・分生研）

◆1998年度会計収支決算報告

1998年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

（第10期　会計幹事　花岡文雄）

1998年度日本分子生物学会収支決算書（1998年4月1日～1999年3月31日）

収入の部　　　　単位：円

科目	予算額	決算額	備考
学会費	32,730,000	38,678,575	正会員会費　28,057,500円
賛助会費	1,500,000	1,380,000	学生会員会費　8,391,000円
広告収入	1,800,000	1,732,800	海外会員会費　565,075円
預金利子	100,000	120,547	入会金　1,665,000円
雑収入	50,000	109,000	
寄付金収入	0	2,000,000	第21回吉田年会長より
収入小計	36,180,000	44,020,922	
前年度繰越金	12,115,233	12,115,233	
合計	48,295,233	56,136,155	

支出の部

科目	予算額	決算額	備考
事業費	13,000,000	11,399,743	
会報発行	3,000,000	2,650,673	
年会補助金	4,000,000	4,000,000	
国際誌発行支援金	4,000,000	4,000,000	
国際誌購読関係費	1,000,000	749,070	
その他	1,000,000	0	
評議委員会費	5,000,000	5,264,379	
委員会費	1,000,000	299,592	
選挙・名簿作成費	4,000,000	4,964,787	
業務委託費	9,000,000	10,709,391	
一般事務費	10,110,000	10,456,332	
用品費	10,000	1,170	
印刷費	300,000	455,169	
通信費	9,000,000	9,175,543	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、会報等郵送料
庶務事務費	650,000	650,000	
雑費	150,000	174,450	
予備費	1,000,000	0	
支出小計	38,110,000	37,829,845	
次年度繰越金	10,185,233	18,306,310	
合計	48,295,233	56,136,155	

◆1998年度会計監査報告

1998年度日本分子生物学会収支決算報告に際し、会計帳簿、銀行残高証明書、領収書、日本学会事務センター出納記録などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第10期会計監査

1999年3月25日　池田　日出男　㊞

1999年3月26日　大久保　公策　㊞

◆第22回（1999年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その2）

第22回年会は、12月7日(火)から10日(金)の4日間、福岡ドーム、シーホークホテル&リゾート、国立病院九州医療センター、福岡SRPセンタービルで開催されます。

今年度の日本分子生物学会年会ではポスター発表を重視した学会にするために、福岡ドーム球場を選びました。機器展示と休憩コーナーもドーム球場内に設置いたします。情報交換の場所としてドーム球場を楽しんでいただければと思っております。なお、シンポジウムとワークショップは隣接するホテル会場と周辺の講演会場を使います。

年会スケジュールのあらましは、下記の通りです。

第22回日本分子生物学会年会長　西本毅治

一般演題

会報No. 62でお知らせしましたように、一般演題は、全てポスターで行います。後記の「発表申込方法」の要領に従い、お申込み下さい。

一般演題（ポスター）発表は、初日から第4日目までの4日間で行います。ポスターのスペースは、高さ150 cm×幅150 cmを予定しています。また、2日間掲示していただきます。

今回は座長制をとり、ポスター会場のブロック単位で、演題番号順に、ポスター発表者全員に口頭で説明をしていただきます。発表者は、プログラムで指定する時間内はポスターの前に立ち、質問・討論に応じて下さい。

貼　　付	8：00～ 9：00
展　　示	9：00～19：00（第4日目は9：00～16：00）
説明・討論	13：00～15：30（奇数番号：第1・3日目、偶数番号：第2・4日目）
撤　　去	第2日目19：00～19：30、第4日目は16：00～17：00

ワークショップ

ワークショップは、初日から第4日目までの9：00～11：30に、約44テーマを予定しています。

各ワークショップの世話人が一般演題の中から選考した演題の方には、ワークショップでの口頭発表をお願いする予定です。採用演題はワークショップのみの発表となります。1演題当りの発表時間は、世話人に任せてあります。発表はスライドで行います（OHPご希望の方は、事前に世話人にお知らせ下さい）。

シンポジウム

組織委員会で別表のような12題のシンポジウムを企画しました。シンポジウムは同時に4会場で、初日から第3日目までの16：00～19：00に行う予定です。

バイオテクノロジーセミナー

初日から第4日目までの12：45～14：45に行う予定です。詳細はプログラム（11月上旬発行予定）と講演要旨集（11月下旬発行予定）をご覧下さい。

市民公開講演会

第4日目の17：00～19：00に行います。講演者、演題は下記の通りです。詳細はプログラムと講演要旨集をご覧下さい。

七田芳則（京大・理）	ミクロの世界からみた視覚の進化
池田穰衛（東海大・医）	神経の病気と遺伝子
関口睦夫（福岡歯大）	遺伝子からがんに迫る

発表申込方法

1.　代表発表者として応募できるのは、本年度会費既納の本学会員に限られます。代表発表者になれる発表は一人一題とします。ただし、他の発表の連名者になることは差し支えありません。

2. 発表申込締切日　　1999年8月20日(金)必着

3. 発表申込書送付先　〒560-0082 豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル14階
学会センター関西 内
第22回日本分子生物学会年会係

4. 発表申込みは、発表申込書、講演要旨用紙、演題申込受取書、発表演題採否通知書に必要事項を記入・印字し、講演要旨用紙のコピー5部（B5判）を添えて、簡易書留便で上記の年会係までお送り下さい。

5. 発表申込書の記入方法
 1) ＊印の項には記入しないで下さい。
 2) 発表申込書の連絡先欄には、代表者1名の氏名、住所、TEL、FAX、E-mailを記入して下さい。
 3) 人名索引編集用カードには、演者および連名の方の全てについて1枠に1名ずつ記入して下さい。カタカナでの表記は避けて下さい。
 4) 代表発表者の本年度会費納入を確認するために、発表申込書の指定の欄に、会費払込みの際に郵便局等が発行する領収書のコピーを貼付して下さい。なお、入会手続中の方や、領収書を紛失された方は同欄にその旨を記入して下さい。また、入会申込みをされた方には、入会申込書（兼会員カード）を提出された後に、㈶日本学会事務センター（東京）より会費の請求書が送付されますのでご注意下さい。会費未納の場合には発表申込みを受理できませんので、ご注意下さい。

6. 講演要旨用紙の記入方法
 1) ＊印の項には記入しないで下さい。
 2) ワークショップを希望される場合は、「希望する」に○印を付けて、希望するワークショップの番号を記入して下さい。
 3)「ポスター発表分類表」より演題に最も関連の深い分類を二つ選び、希望順に記入して下さい（5b、4a）。ワークショップ希望の場合も記入して下さい。
 4) また、同一グループが一連の発表をし関連演題に順序をつけたい場合のみ、その旨を関連演題順序欄に記入例をご覧になって明確に記入して下さい。
 5) キーワードを3語、記入して下さい。
 6) 講演要旨はオフセット印刷しますので、ワードプロセッサー（ただし、できるだけレーザープリンターをご使用下さい）またはタイプライターで直接印字するか、または印刷したものを丁寧に糊付して下さい。
 7) 代表発表者の前の左肩には○印をつけて下さい。
 8) 所属は略称を用いて下さい（外国の所属には国名を明記して下さい）。
 9) 演題、発表者氏名、所属を日本語と英語で並記して下さい。
 10) 講演要旨は、日本語、英語のどちらでも結構です。なお、縮小率は約58%ですので図や表にご注意下さい。
 11) 講演要旨用紙の鮮明なコピー5部（B5判）を添付して下さい。

7. 演題申込受領書・発表演題採否通知書の記入方法
 1) 演題申込受領書と発表演題採否通知書のはがきには演題名を記入し、裏面には宛名を記入して、50円切手を貼って下さい。切手がない場合には返送しません。
 2) 演題申込受領書は、申込書到着後に代表者の本年度会費納入を確認したうえで、返送されます。
　発表申込みの採否：ポスター発表は組織委員会が、ワークショップはワークショップの世話人が決定します。個々の発表日時と会場については、プログラムでお知らせします。

参加申込および参加費

1. 年会参加費は前納（締切11月５日）の場合は一般会員7,000円、学生会員5,000円、非会員10,000円です。11月８日以降の送金から当日の受付までは、一般会員10,000円、学生会員7,000円、非会員11,000円となりますのでご注意下さい。

   年会参加費には、講演要旨集１部の代金が含まれています。なお、講演要旨集のみご希望の方には、会員3,000円（ただし、会員１人につき１部のみ）、非会員5,000円でお頒けします。

   講演要旨集は印刷物として発行します。

2. 懇親会の代わりに、ポスター会場でミキサーを行います。

3. 会場であるシーホークホテル＆リゾートの宿泊を特別安く確保いたしましたので、奮ってご利用下さい。

4. 年会参加費、講演要旨集代金の払込みには、同封の振替用紙をご使用下さい。同封の振替用紙を使用されない場合には必ず通信欄に、第22回日本分子生物学会年会と記入し、送金の内訳、住所、氏名（フリガナ）をご記入のうえ、下記の郵便振替口座へご送金下さい。

   〈送金口座〉

   口座番号　　00990-0-144437

   加入者名　　第22回日本分子生物学会年会

   （学会費の振替用紙とは口座が異なりますのでご注意下さい）

   なお、経費節減のために、参加章と講演要旨集のそれぞれをできるだけまとめて発送したいと思います。周囲に複数の申込者がいる場合は、年会参加費の納入に際してできるだけ以下のようなご協力をお願いします。

   1) 参加章と講演要旨集を一括して発送できるグループ（例えば研究室単位等）を作り、連絡責任者を決めて下さい。連絡責任者は、年会参加費等を集め一括して振替用紙で送金して下さい。

   2) 連絡責任者は、送金と同時に、別途、連絡責任者の住所（TEL、FAX、E-mail も記入）と送金の明細（各送金者の氏名（フリガナ）、所属、内訳）を明記して、下記の年会事務局宛に文書でお送り下さい（特に様式はありません）。

5. 11月５日までに年会参加費を振込まれた方には、年会前（11月下旬）に連絡責任者に参加章と講演要旨集（グループ発送）を送付します。11月８日以降に振込まれた場合には、年会会場にて参加章と講演要旨集をお渡しすることになりますのでご注意下さい。

6. 年会参加費等払込みの領収書は、原則として発行しませんのでご了承下さい。念のため、郵便局が発行する領収書は、参加章や講演要旨集の到着まで保管しておいて下さい。

年会期間中の宿泊、JR 券、航空券等のご案内

会報に綴込んだ「宿泊ホテル・割引航空券等のご案内」をご利用下さい。お申込み・問合せは下記に直接ご連絡下さい。

日通旅行（日本通運株式会社福岡旅行支店旅行第一課）

〒810-0001 福岡市中央区天神2-12-1　天神ビル３階

TEL（092）721-3335、FAX（092）761-6124

第22回年会に関する問合先

〒560-0082 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル14階

学会センター関西内

第22回日本分子生物学会年会係

TEL（06）6873-2301、FAX（06）6873-2300　（郵便番号は現在の565-0082が７月から変更になります）

第22回日本分子生物学会年会　日程表（予定）

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

日付	日程
12月７日（火）	ワークショップ／バイオテクノロジーセミナー／ポスター発表 説明・討論（奇数）／シンポジウム 貼付／ポスター／ミキサー 機器・試薬・書籍等展示
12月８日（水）	ワークショップ／バイオテクノロジーセミナー／ポスター発表 説明・討論（偶数）／シンポジウム ポスター／ミキサー／撤去 機器・試薬・書籍等展示
12月９日（木）	ワークショップ／総会／バイオテクノロジーセミナー／ポスター発表 説明・討論（奇数）／シンポジウム 貼付／ポスター／ミキサー 機器・試薬・書籍等展示
12月10日（金）	ワークショップ／バイオテクノロジーセミナー／ポスター発表 説明・討論（偶数）／市民公開講演会 ポスター／ポスター撤去 機器・試薬・書籍等展示

第22回年会ポスター発表分類表（Classification of poster sessions）

1　ゲノム（Genomes）
　a　ゲノム構造（Genome structures）
　b　ゲノム機能（Genome functions）
　c　ゲノム情報（Genome information）
　d　その他（Others）

2　分子構造（Molecular Structures）
　a　遺伝子・核酸（Genes and nucleic acids）
　b　タンパク質（Proteins）
　c　分子集合（Molecular assemblies）
　d　分子進化（Molecular evolution）
　e　染色体外因子（ウイルス、ファージ、プラスミド）〔Extra-chromosomal factors (Viruses, Phages, Plasmids)〕
　f　糖（Carbohydrates）
　g　脂質（Lipids）
　h　その他（Others）

3　分子機能（Molecular functions）
　a　複製（DNA、RNA、染色体）〔Replication (DNA, RNA, Chromosomes)〕
　b　染色体外因子（ウイルス、ファージ、プラスミド）〔Extra-chromosomal factors (Viruses, Phages, Plasmids)〕
　c　組換え、修復、変異（Recombination, Modifications, Mutations）
　d　転写（Transcription）
　e　翻訳（Translation）
　f　RNA 機能、RNA プロセッシング（RNA functions, RNA processing）
　g　タンパク質のプロセッシング（Protein processing）
　h　輸送と局在化（Transport and localization）
　i　その他（Others）

4　細胞の構造（Cellular structures）
　a　核内構造と核機能（染色体、クロマチン、核小体）〔Nuclear structures and functions (Chromosome, Chromatin, Nucleali)〕
　b　細胞質オルガネラ（ミトコンドリア、クロロプラスト等）の構造と機能〔Organellas (Mitochondoria, Chroloplasts)〕
　c　生体膜、細胞骨格〔Cell Membranes, Cytoskeleton)〕
　d　その他（Others）

5　細胞の機能（Cellular functions）
　a　生理活性物質（Bioactive substance）
　b　細胞増殖（分裂、周期）〔Cell proliferation (Division, Cell cycle)〕
　c　がん遺伝子、がん化（Oncogenes, Tumorigenesis）
　d　エネルギー（Bioenergetics）
　e　運動（Cell Motility）
　f　シグナル伝達（Signal transduction）
　g　細胞形質転換（Transformation）
　h　アポトーシス（Apoptosis）
　i　その他（Others）

6　高次生命現象（Integrative and specialized cellular events）
　a　免疫（Immune）
　b　発生、分化（形態形成）〔Development, Differentiation (Morphogenesis)〕
　c　脳・神経系（Brain, Nervous system）
　d　老化（Aging）
　e　細胞間認識（Cell-cell interactions and recognition）
　f　がん（Cancer）
　g　遺伝病（Genetic diseases）
　h　その他（Others）

7　分子生物学的方法論、技術（Methods and techniques）
　a　DNA・RNA工学（DNA, RNA technology）
　b　タンパク質工学（Protein technology）
　c　ノックアウト・トランスジェニック生物（Knockout, Transgenic animals）
　d　病因解析および診断（Diagnosis）
　e　その他（Others）

8　生命情報科学・理論（Bioinformatics and theories）
　a　分子進化（Molecular evolution）
　b　その他（Others）

9　その他（Others）

〈シンポジウム〉

12月7日（火）

1. ポストシークエンシングのヒトゲノム研究 ―ヒトゲノムの多様性―
   世話人：林　健志（九大・遺伝情報）、中村祐輔（東大・医科研）
   演　者：Deborah Nickerson (USA)、Mark Lathrop (France)、Lisa Brooks (USA)、
   林　健志（九大・遺伝情報）、中村祐輔（東大・医科研）

2. 染色体分配
   世話人：平賀壮太（熊本大・医）、菊池韶彦（名大・医）
   演　者：Alan D. Grossman (USA)、平賀壮太（熊本大・医）、Jeff Errington (UK)、
   舛本　寛（名大・院理）、Gary Karpen (USA)

3. 体軸形成の分子機構
   世話人：相沢慎一（熊本大・医）、上野直人（基生研）
   演　者：武田洋幸（国立遺伝研）、Michel Shen (USA)、濱田博司（阪大・細生工セ）、
   Richard Harland (USA)

4. 分子シャペロンによる細胞機能制御
   世話人：森　正敬（熊本大・医）、永田和宏（京大・再生研）
   演　者：Ulrich Hartl (Germany)、寺田和豊/森　正敬（熊本大・医）、和田郁夫（札幌医大）、
   永田和宏（京大・再生研）、森　和俊（京大・生命科学）

12月8日（水）

5. プロテインキネシス ―タンパク質選別輸送とオルガネラ形成のダイナミズム―
   世話人：藤木幸夫（九大・院理）、三原勝芳（九大・院医）
   演　者：Walter Neupert (Germany)、藤木幸夫（九大・院理）、中野明彦（理研）、
   Richard H. Scheller (USA)、Dirk Goerlich (Germany)

6. 造血幹細胞発生の分子機構
   世話人：須田年生（熊本大・医）
   演　者：仲野　徹（阪大・微研）、西川伸一（京大・院医）、須田年生（熊本大・医）、
   宮島　篤（東大・分生研）、佐竹正延（東北大・加齢研）、
   山本雅之（筑波大・先端学際研セ）、James D. Engel (USA)

7. 脊椎動物におけるゲノム機能解析
   世話人：山村研一（熊本大・医）
   演　者：Rudi Balling (Germany)、Joseph Nadeau (USA)、Pascal Hafftner (Germany)、
   城石俊彦（国立遺伝研）、山村研一（熊本大・医）

8. 真核生物染色体DNA複製機構
   世話人：杉野明雄（阪大・微研）
   演　者：John F. Diffley (UK)、滝沢温彦（阪大・院理）、釣本敏樹（奈良先端大）、
   杉野明雄（阪大・微研）、石見幸男（三菱化学生命研）

12月 9 日（木）

9.　行動と学習の神経機構

世話人：大島靖美（九大・院理）、山元大輔（早稲田大・人間科学）

演　者：山元大輔（早稲田大・人間科学）、吉岡　亨（早稲田大）、大島靖美（九大・院理）、
八木　健（生理研）、Claudio Mello (USA)

10.　クロマチン構造と転写制御

世話人：中山建男（宮崎医大）、佐々木裕之（国立遺伝研）

演　者：石井俊輔（理研）、大木　操（国立がんセ・研）、広瀬　進（国立遺伝研）、
Yoshihiro Nakatani (USA)、佐々木裕之（国立遺伝研）、中山建男（宮崎医大）

11.　細胞周期とチェックポイント

世話人：柳田充弘（京大・生命科学）

演　者：Andrew Murray (USA)、Paul Russell (USA)、岡山博人（東大・院医）、
柳田充弘（京大・生命科学）

12.　免疫系における選択と制御の分子機構

世話人：本庶　佑（京大・院医）、渡邊　武（九大・生医研）

演　者：黒崎知博（関西医大・肝臓研）、塚田　聡（阪大・医）、斉藤　隆（千葉大・院医）、
高浜洋介（徳島大・ゲノムセ）、審良静男（阪大・微研）

〈ワークショップ〉

1. ゲノムシークエンスから細胞機能の全体像へ　小笠原直毅
2. ゲノムシーケンスを基盤とした新たなヒト分子生物学の展開　清水　信義
3. イネ分子生物学・ゲノム学の最前線　佐々木卓治　島本　功
4. 発生プログラム解明に向けた網羅的アプローチの現状と展望　小原　雄治　平良　眞規
5. 生物多様性の分子機構　五條堀　孝　宮田　隆
6. 3次構造およびゲノムからみたタンパク質間相互作用　住本　英樹　伊藤　隆司
7. 突然変異とゲノム構造変化の分子機構　真木　寿治　堀内　嵩
8. DNA修復研究の最前線　花岡　文雄
9. RNA分子生物学の最先端　谷　時雄　中村　義一
10. Walker型ATPアーゼの分子生物学　小椋　光　吉田　賢右
11. ウイルスの“かたち”　永田　恭介　豊田　哲也
12. ウイルス感染症の分子基盤　小林　信之　片峰　茂
13. DT40細胞株を用いた高等真核細胞の機能解析　武田　俊一　高見　恭成
14. 植物オルガネラ研究の新アプローチ　射場　厚　小保方潤一
15. オルガネラ構築とその制御　伊藤　明夫　阪口　雅郎
16. 小胞輸送とその制御分子　姫野　勝　中山　和久
17. ミトコンドリアゲノムの維持機構と疾患　康　東天　中別府雄作
18. 微生物細胞周期の新展開　片山　勉　仁木　宏典
19. DNA複製に連携した染色体ダイナミクス　升方　久夫　和賀　祥
20. 染色体複製をモニターする機構　荒木　弘之　正井　久雄
21. 発生・分化と細胞周期　佐方　功幸　小林　英紀
22. 新しい細胞機能制御系“ユビキチンワールド”　山尾　文明　中山　敬一
23. タンパク質リン酸化による細胞骨格ダイナミクスの制御　貝淵　弘三　水野　健作
24. PI3K関連プロテインキナーゼと細胞機能統御　寺岡　弘文　水谷　修紀
25. サイトカイン・増殖因子のシグナル伝達制御機構 —遺伝子破壊からわかること—　吉村　昭彦　久保　允人
26. 脂質メディエーターによる生体制御　清水　孝雄　成宮　周
27. アポトーシス　長田　重一

28. 転写制御因子によるボディープラン
近藤　寿人
黒岩　　厚

29. 幹細胞と再生医学　阿形　清和
岡野　栄之

30. エピジェネティクスの分子生物学
押村　光雄
向井　常博

31. 神経発生における細胞分化の分子基盤
影山龍一郎
大隈　典子

32. 成長円錐から脳へ　村上富士夫
野田　昌晴

33. 種を越えた生物時計の分子機構　谷村　禎一
石田直理雄

34. 神経・精神疾患研究の新展開　辻　　省次
服巻　保幸

35. 腫瘍形成・悪性化の分子メカニズム
佐谷　秀行

36. ABC トランスポータの分子医学　河野　公俊
植田　和光

37. 血管新生の分子機構とがん治療への展開
小野　眞弓
渋谷　正史

38. 心臓大血管形成の分子生物学　三浦　直行
栗原　裕基

39. 「遺伝子病の分子遺伝学」のトピックス
名和田　新
加藤　茂明

40. 骨粗鬆症の分子生物学　野田　政樹
宮園　浩平

41. インスリン分泌の分子生物学　門脇　　孝
清野　　進

42. 突然変異マウスによる遺伝子機能解析
—最近の進歩—　勝木　元也
野田　哲生

43. 創薬に向けた分子生物学　関水　和久
桑野　信彦

44. パラサイトの戦略と分子進化 —宿主・病原体共進化研究のフロンティア—
嚴佐　　庸

〈ワークショップ概要〉

1.　ゲノムシークエンスから細胞機能の全体像へ

世話人：小笠原直毅（奈良先端大）

全ゲノムシークエンスが明らかにされたモデル生物の数は飛躍的に増加している。このゲノム情報をベースにして、細胞機能の全体像を理解に向けた研究が進行中である。本ワークショップでは、遺伝子破壊株の作成などの逆遺伝学的手法の研究に加えて、マイクロアレイ、プロテオーム解析などの新たなアプローチの試みなど、ゲノムシークエンスから細胞機能の全体像の解明をめざす研究の現状と展望を、微生物を中心に討論する。

2.　ゲノムシーケンスを基盤とした新たなヒト分子生物学の展開

世話人：清水信義（慶應大・医）

ヒトゲノム解析プロジェクトはその目標「30億塩基対のシーケンシング」の達成に向かって着実に進展している。来春には全ゲノムのラフドラフトが英米から提出されようとしている。我が国においては、主に大学を拠点としてメガベース以上の連続ゲノムシーケンシングが行われ、その精細なデータ解析から既にさまざまな新規遺伝子が同定され、生物学・医学に重要なインパクトを与えつつある。本ワークショップではヒトゲノム解析計画の国内外の進捗状況およびゲノムシーケンスを基盤とした新たなヒト分子生物学の展開を考察する。

3.　イネ分子生物学・ゲノム学の最前線

世話人：佐々木卓治（農水省・農生資研）、島本　功（奈良先端大）

イネの遺伝学上の研究対象素材としての重要性は、従来から認識されているが、近年のイネ大規模ゲノム解析の結果、新たに分子レベルでの研究対象あるいはイネ科穀類のモデル植物として脚光をあびつつある。本ワークショップではゲノム解析の最新状況とそれを利用した遺伝子機能解析の成功例等を中心に話題を提供し、今後さらにイネ分子生物学・ゲノム学を発展させるための方途を討議する。

4.　発生プログラム解明に向けた網羅的アプローチの現状と展望

世話人：小原雄治（国立遺伝研）、平良眞規（東大・院理）

ゲノムプロジェクトの爆発的な進展の中で再認識させられるのは、生物が（それほど多くない）有限数の遺伝子によって営まれていることである。発生プログラムの解明とはそれぞれの局面に参加する遺伝子群の働きと相互関係を明かにすることであるが、対象が有限数であるならば、そのすべてについて発現様式、機能、相互作用など様々な角度から解析をおこない、それを総合するという網羅的アプローチの戦略が可能となる。国際的な動向も含めて、いくつかの生物について現状の把握と将来展望をおこないたい。

5.　生物多様性の分子機構

世話人：五條堀孝（国立遺伝研）、宮田　隆（京大・院理）

分子生物学的な新しいアプローチにより、形態進化と分子進化の接点を探索したり、生物の多様化機構を直接に解明したりすることが可能になりつつある。本ワークショップでは、このような視点に基づく多様性研究の最新の成果を発表していただき、有意義な情報交換の場を提供したい。

6.　3次構造およびゲノムからみたタンパク質間相互作用

世話人：住本英樹（九大・院医）、伊藤隆司（東大・医科研）

蛋白質間相互作用を担う modular domain の重要性は近年広く認識されるところとなった。それに伴い立体構造決定も急速に進展し、構造をもとに分子機構や機能を考察する時代を迎えつつある。その一方で蛋白質間相互作用ネットワークの全体像の解明を目指す動きも出てきた。本ワークショップでは、

蛋白質間相互作用に関する新規 modular domain の発見、機能解析、構造解析をヒト食細胞と酵母の系を例に紹介する。さらに、同様な視点からの構造・ゲノム・情報生物学的アプローチも若干数公募したい。

7. 突然変異とゲノム構造変化の分子機構

世話人：真木寿治（奈良先端大）、堀内　嵩（基生研）

遺伝情報の正確な維持・伝達は細胞の生存や機能維持に必須である反面、突然変異や染色体レベルでの大きなゲノム構造の変化が生物進化の原動力となっている。遺伝情報の維持と変化の研究は、DNA 複製、組換え、修復、染色体分配、細胞周期制御、細胞分裂などの多くの分野を含む「学際的」な側面がますます顕著になりつつある。このワークショップでは、「学際的」な研究成果を中心として、関連分野を横断する視点を提供したい。

8. DNA 修復研究の最前線

世話人：花岡文雄（阪大・細生工セ）

DNA の修復は、細胞のがん化や老化、突然変異などと密接な関係にあり、種の保存に必須の機能であると同時に、個体の維持にも重要なプロセスである。本ワークショップでは、近年、急速に研究が進展しつつあるヌクレオチド除去修復、ミスマッチ修復、組換え修復など、様々な DNA 修復機構の分子メカニズムがどこまで進んでいるかを紹介し、さらに DNA 複製や細胞周期のチェックポイント等、他の細胞機能との接点についても議論したい。

9. RNA 分子生物学の最先端

世話人：谷　時雄（九大・院理）、中村義一（東大・医科研）

RNA は遺伝情報発現の中心的仲介因子として機能するだけでなく、RNA 自体が触媒因子として働くなどの多機能性をもつ。近年、RNA 触媒、RNA プロセシング、輸送、翻訳調節に関する RNA 研究に著しい進展が見られ、また、発生・分化などの高次生命現象においても、RNA および RNA 結合蛋白質の重要性が注目されている。本ワークショップでは、新たな発展を遂げつつあるそれらの RNA 研究の現状と今後の展望について討論したい。

10. Walker 型 ATP アーゼの分子生物学

世話人：小椋　光（熊本大・医）、吉田賢右（東京工大・資源研）

様々な細胞機能において多数の ATP アーゼが関与する。モータータンパク質、クランプローダーやヘリカーゼ群、ATP 合成酵素、AAA ファミリー ATP アーゼ群、ABC トランスポーター群などは、Walker 型 ATP アーゼの代表的な例である。その基本構造と ATP 加水分解を構造変化として伝達する仕組みなどが明らかになってきた。Walker 型 ATP アーゼの共通分子機構と、それぞれに固有の調節機構を議論する。

11. ウイルスの“かたち”

世話人：永田恭介（東京工大・生命理工）、豊田哲也（久留米大・医）

ウイルスタンパクの立体構造解明に基づくドラッグデザインという創薬概念が導入されて以来、欧米では、産・官・学三位一体による立体構造解明が進んでいる。本ワークショップでは Rui Sousa (Texas)「T7RNA ポリメラーゼの立体構造と生化学的機能解明」を加え、若手を中心として公募し、ファージを含む RNA ウイルスを中心に分子構造・分子機能の解明とその応用について討論を行う。

12. ウイルス感染症の分子基盤

世話人：小林信之（長崎大・薬）、片峰　茂（長崎大・医）

今日感染症を取り巻く現状は急速に変化している。すなわち振興・再興感染症として新たに取り組むべき課題が次々と出現している。これらの問題を解決するためにはウイルスそのものの分子レベルでの

解析のみならず、細胞・固体レベルでからの分子レベルでの病態の解析が求められている。本ワークショップではこれらの観点からウイルス感染症の解明を進める我が国の研究をまとめて紹介したい。

13. DT40 細胞株を用いた高等真核細胞の機能解析

世話人：武田俊一（京大・院医）、高見恭成（宮崎医大）

高等真核細胞にゲノム DNA コンストラクトを導入すると、染色体への組み込みは主にランダムに起る。この唯一の例外として、ニワトリ B リンパ細胞株 DT40 では相同組み換えによる組み込みがランダムな組み込みと同じ効率で起る。DT40 の系は、酵母に匹敵する系統的な遺伝学的解析が行える唯一の系であり、近い将来に始まるであろうヒト細胞の遺伝学的解析の先駆けとなる系である。本ワークショップでは、動物細胞株の遺伝学的解析の実験デザイン、特色、表現型解析方法なども含めて討論する。

14. 植物オルガネラ研究の新アプローチ

世話人：射場　厚（九大・院理）、小保方潤一（名大・遺伝子）

独立栄養を基本とする緑葉細胞は、それを構成するオルガネラのレベルに最も本質的な特徴が現われている。よって、葉細胞の分化および機能化をオルガネラ形成の面から解明することは、植物を最も特徴づける緑葉の生命現象の理解にとって極めて重要である。このワークショップでは、植物オルガネラの研究領域で現在精力的に活動している若手研究者が積極的に議論し、相互の研究の接点を見い出す機会を創出したい。

15. オルガネラ構築とその制御

世話人：伊藤明夫（九大・院理）、阪口雅郎（九大・院医）

オルガネラ構築に関する研究は、細胞内輸送、膜透過、膜形成等、構築の素過程の分子機構を中心に精力的に進められている。一方、オルガネラは形態的にも機能的にもダイナミックなものであり、細胞内外からの様々な刺戟に対し機敏に対応している。その際、複数のオルガネラが協調して作用していることが多い。こうした観点からの研究は未だ極めて少ないが、ここでは、この方向を指向していると思われる萌芽的な発表を中心に議論を深め、将来への展開を探る。

16. 小胞輸送とその制御分子

世話人：姫野　勝（九大・院薬）、中山和久（筑波大・生物科学）

細胞内膜系は小胞を介してダイナミックに変化し、活発な膜輸送を行っていると同時に小胞輸送と類似した機構で、ゴルジ体の形成が制御されていることが明らかにされている。さらにこれらの小胞構成膜タンパク質と相互作用する多くの細胞質タンパク質が調節因子として同定されている。特に TGN 以降での膜タンパク質の選別とリサイクリングにはアダプター複合体ファミリーが深く拘っていることが明らかになりつつある。今回、これらの分野で第一線の研究をされている若手研究者に幅広い話題を提供していただき、活発な議論を行う場としたい。

17. ミトコンドリアゲノムの維持機構と疾患

世話人：康　東天（九大・院医）、中別府雄作（九大・生医研）

現在、老化を含む神経変性疾患、心疾患におけるミトコンドリアゲノム破綻の重要性がますます認識されている。ほ乳類ミトコンドリアゲノムは分子生物学的改変ができないため、ミトコンドリアゲノム変異の検出と付随する呼吸能などの表現形の観察という現象論的研究が主として行なわれてきた。この方法論的限界の克服に向け、このワークショップでは、逆にミトコンドリアゲノム維持機構（修復、複製、組換え等）とその機構を担う分子からミトコンドリアゲノムの変化を考察するという研究の方向性を示したい。

18.　微生物細胞周期の新展開

世話人：片山　勉（九大・院薬）、仁木宏典（熊本大・医）

分子生物学的解析が容易な大腸菌、枯草菌、酵母などの微生物細胞の系は細胞増殖・細胞周期の基本メカニズムの解明に貢献してきた。近年、これらの微生物ゲノムが決定され、また細胞学的な研究手法が微生物においても盛んに応用されるようになり、新たな分子メカニズムが次々と明らかになっている。本ワークショップでは原核および真核の微生物細胞の研究を通し普遍的な生命現象の解明に至ろうとする最近の研究成果に焦点をあてたい。

19.　DNA 複製に連携した染色体ダイナミクス

世話人：升方久夫（阪大・院理）、和賀　祥（阪大・微研）

最近、細胞周期の中でダイナミックに構造変化する染色体の機能と関連して DNA 複製をとらえようとする動きが現れてきた。例えば、ヌクレオソーム構造の形成や姉妹染色分体の対合と DNA 複製装置とのカップリングを示唆する結果が報告されている。そこで本ワークショップでは、染色体 DNA 複製の分子機構と合せ、細胞周期の制御の下で DNA 複製の開始・進行と連携しながらどのように染色体が構築されていくのかを討論したい。

20.　染色体複製をモニターする機構

世話人：荒木弘之（国立遺伝研）、正井久雄（東大・医科研）

染色体 DNA は、細胞周期の S 期に一度だけ複製され、その進行および終了と細胞分裂は、厳密に連動している。また、複製に異常が起こると S 期の進行が遅れたり、細胞分裂を停止する。これらは、染色体複製をモニターする機構の働きによる。最近、このモニター系の実体が細胞複製装置自体であることが示唆されている。そこで、本ワークショップでは、複製装置とその制御因子による複製のモニタリングの分子機構を考察する。

21.　発生・分化と細胞周期

世話人：佐方功幸（九大・院理）、小林英紀（九大・院医）

細胞周期制御の研究は酵母や哺乳動物培養細胞の系を中心としてその中心教義が確立されつつある。しかし、発生過程において細胞周期の様式は著しく変化し、その制御は細胞・組織の分化とも密接に関連している。従って、発生・分化において細胞周期がいかに制御されているかは基本的に重要な問題と言える。本ワークショップではこのような視点から、生殖細胞から細胞の末端分化に至る細胞周期制御研究の現状を展望する。

22.　新しい細胞機能制御系“ユビキチンワールド”

世話人：山尾文明（国立遺伝研）、中山敬一（九大・生医研）

蛋白質のユビキチン化が細胞機能の制御機構において重要な基盤をなすことが広く認識されている。特に多様なユビキチンリガーゼ、脱ユビキチン化酵素、ユビキチン様蛋白質の発見などにより、その基質特異的な認識機構や調節機構もようやく分子レベルで解明されつつある。これらの可逆的蛋白修飾系を新しい細胞機能制御系としての包括的コンセプト“ユビキチンワールド”と捉え、その生物学的意味を最新の研究成果をもとに議論する。

23.　タンパク質リン酸化による細胞骨格ダイナミクスの制御

世話人：貝淵弘三（奈良先端大）、水野健作（東北大・院理）

細胞骨格は細胞接着、細胞運動、細胞質分裂、細胞の極性形成などの多くの細胞高次機能において重要な役割を果たしていると考えられている。細胞骨格を形成するアクチンフィラメント、微小管、中間径フィラメントなどの繊維構造は細胞外シグナルや細胞周期に応答してその存在様式が変化している。最近、タンパク質リン酸化による細胞骨格、細胞接着、細胞極性の制御機構が急速に解明されつつあ

る。本ワークショップでは、これらの細胞の高次機能をタンパク質リン酸化という共通の切り口で議論したい。

24.　PI3K 関連プロテインキナーゼと細胞機能統御

世話人：寺岡弘文（東京医歯大・難治研）、水谷修紀（国立小児病院）

リン脂質リン酸化酵素の活性領域とは高いホモロジーを示すものの、タンパク質セリン・スレオニンリン酸化酵素として機能する一群の酵素が知られてきた。2 重鎖 DNA 依存性プロテインキナーゼ（マウス SCID の原因遺伝子産物）、ATM（ataxia telangiectasia mutated 遺伝子産物）、ATR, mTOR など、300 kDa 以上の単一ポリペプチドからなる本酵素ファミリーの構造・機能・発現・調節・生物学的意義および相関関係について総合的に議論する。

25.　サイトカイン・増殖因子のシグナル伝達制御機構 ―遺伝子破壊からわかること―

世話人：吉村昭彦（久留米大・分子生命研）、久保允人（東京理大）

近年サイトカインや増殖因子の細胞内シグナル伝達機構の解明は著しく進歩しており受容体から転写制御にいたるまでの経路がかなりはっきりしてきた。同時に機能が未知のシグナル伝達分子やアダプター分子も次々とクローニングされている。シグナルの制御や未知のシグナル伝達分子の機能解明には遺伝子破壊マウスの解析が有効である。本ワークショップではサイトカイン、増殖因子、および抗原刺激などのシグナルの制御機構について生化学的な手法とともに遺伝学的なアプローチを中心にした講演を企画する。

26.　脂質メディエーターによる生体制御

世話人：清水孝雄（東大・院医）、成宮　周（京大・院医）

プロスタグランディン、ロイコトリエン、PAF、リゾリン脂質などの脂質メディエーターは神経機能の調節や生体防御、ホルモンや免疫反応の調節など生体で多彩な作用を営んでいる。脂質メディエーターは刺激に応じて産生され、作用後速やかに分解されるが、そのわずかな時間に G タンパク共約型受容体（GPCR）に結合し、多彩な作用を営む。酵素や受容体の多くが我が国で単離され、また、ノックアウトマウスも作成され、予想外の機能も明らかになりつつある。本ワークショップではそれら最新の知見をまとめて討論する機会としたい。

27.　アポトーシス

世話人：長田重一（阪大・院医）

近年、アポトーシスの誘導因子、実行因子、阻害因子が同定され、その分子機構が詳細に解明されようとしている。また、これらシグナル伝達分子の、過剰発現、機能不全による個体発生の異常が見いだされ、ヒトの病気がアポトーシスの制御不全により起こる可能性も指摘されている。本ワークショップでは、大部分の演者を、一般公募の中から採択し、アポトーシス研究の現状を討論する予定である。

28.　転写制御因子によるボディープラン

世話人：近藤寿人（阪大・細生工セ）、黒岩　厚（名大・院理）

ボデイープランを形態や機能として実現する発生過程ではさまざまなシグナル分子や転写制御因子が活躍するが、シグナル因子の作用も結局は転写制御因子に行き着く。本セッションでは、ファミリーをなしている転写制御因子群が、global にどのようにして動物のボディープランの下地をつくり、そしてボディープランを実現しているかという問題に焦点を当てる。転写制御因子をマーカーとして考えるのではなく、それらの作用をもとに胚発生を見直すセッションである。

29.　幹細胞と再生医学

世話人：阿形清和（姫路工大・理）、岡野栄之（阪大・院医）

現在多くの臓器において多分化能幹細胞の同定と ES 細胞からの誘導が可能になり、哺乳動物を対象

として、発生過程を一部再現させることにより臓器再生を目指そうという新しい学問潮流が生まれつつある。また、まさにこれに立脚した治療哲学である「再生医学」が大きな注目と期待を浴びている。本ワークショップではこれまでの再生現象、特に幹細胞における知見を整理し、臨床応用を含めた今後の展望について議論したい。

30. エピジェネティクスの分子生物学

世話人：押村光雄（鳥取大・医）、向井常博（佐賀医大）

エピジェネティックス（epigenetics）はDNAの塩基配列には変化がなく、DNA, RNAあるいは蛋白の修飾により発現に変化がもたらされる（遺伝）現象である。組織特異的発現や発生過程における遺伝子発現に重要な役割を持っており、その異常は発生、分化の異常をひき起こす。ここでは動物、植物および微生物におけるエピジェネティックな変化、特にDNAメチレーションによりもたらされる様々な生命現象について進化学的、発生学的、および分化への役割を理解することを目的とし、広く動、植物および微生物分野からの発表の応募を期待します。

31. 神経発生における細胞分化の分子基盤

世話人：影山龍一郎（京大・ウイルス研）、大隈典子（東北大・院医）

近年、分子レベルでの発生現象の解析はおおいに前進し、神経系の形成についても多くの情報をもたらした。とりわけ、多様な神経細胞群や支持細胞などがどのような遺伝子制御のもとに特定の場所に正しい数だけ生まれるのかについて、理解が深まりつつある。本ワークショップでは、ショウジョウバエから脊椎動物までの広い範囲でこの分野の最新の進展状況について紹介すると共に、活発な討論が行われることを期待する。

32. 成長円錐から脳へ

世話人：村上富士夫（阪大・院基礎工）、野田昌晴（基生研）

脳の神経回路形成のメカニズムの解明は脳研究における最重要課題の一つである。本ワークショップでは、成長円錐ガイド因子や細胞接着分子を介したシグナルの受容と細胞内伝達の分子機構について、伸長路決定からシナプス形成まで様々なレベルで、また無脊椎動物から高等脊椎動物まで様々な研究材料を用いて、最前線で研究を行っている研究者による研究発表と活発な討論を期待している。

33. 種を越えた生物時計の分子機構

世話人：谷村禎一（九大・院理）、石田直理雄（通産省・工技院・生命研）

世界的に生物時計分子機構の研究は特にここ2～3年で爆発的に進展し、日米間で過激な競争状態にある。事実昨年のScience誌の調査によればバイオロジー部門でクローン羊に次ぎ引用率が第2番目に哺乳類時計遺伝子の発見が位置付けられた。特にショウジョウバエと哺乳類に共通して存在する時計遺伝子*period*, *timeless*, *clock*, *BMAL1*, *cry*等の発見により種を越えた共通分子機構が明らかとなってきた。哺乳類時計中枢（SCN）での出来事がどの程度までcell autonomousな事象としてショウジョウバエやバクテリアのシステムに還元できるかについて議論したい。

34. 神経・精神疾患研究の新展開

世話人：辻　省次（新潟大・脳研）、服巻保幸（九大・遺伝情報）

神経・精神疾患の解析は、診断・治療法の開発とともに、高次生命現象の分子機構を知る上で極めて重要である。最近、神経変性疾患の分子病因および病態機序が相次いで明らかにされるとともに、「こころ」と深く関わっている精神疾患の分子レベルでの研究がクローズアップされつつある。ここではゲノム情報を取り込みその進展が著しいこれらの研究領域における現状について、単一遺伝子病から多因子病解析への流れを踏まえて議論することにより、今後の道を探りたいと考えている。

35.　腫瘍形成・悪性化の分子メカニズム

世話人：佐谷秀行（熊本大・医）

高等生物の組織構築は体細胞の複製と分裂が正確に行われることによって維持されている。従って、複製と分裂のステップは多くの分子の共同作業によって厳密に監視されている。近年、細胞の腫瘍化はこのような複製と分裂を監視する分子の異常が引き金となって生じることが明かになってきている。本ワークショップでは、これらの分子とその細胞内での動態、相互作用についての新しい知見を集め、発癌および悪性化を引き起こすメカニズムについて集中的に討論を行いたい。

36.　ABC トランスポータの分子医学

世話人：河野公俊（産業医大）、植田和光（京大・院農）

ABC トランスポータ群は、全塩基配列が決定された大腸菌では最も大きなファミリーを形成していることが明らかになった。一方ヒトでは、嚢胞性線維症をはじめ10種類以上のヒト遺伝病の責任遺伝子であることが明らかにされ、生物にとって重要な生理機能を担っていることが理解される。本ワークショップでは、新しいファミリー遺伝子の同定、基質認識や発現制御機構などについての最近の成果に基づき、ABC トランスポータの今と今後を議論したい。

37.　血管新生の分子機構とがん治療の展開

世話人：小野眞弓（九大・院医）、渋谷正史（東大・医科研）

血管新生は胎生期においては循環器の形成や組織の栄養と構築に、また性周期、黄体形成子宮内膜の増生などに重要な役割を果たしている。さらに、加齢性黄斑変性、糖尿病網膜症、関節リウマチ、がんなどの血管新生病の病態にも深く関与している。近年、血管新生の分子機構の研究が活発となり、その役割が具体的にクローズアップされつつある。そこで VEGF/VEGF 受容体やメタロプロテアーゼによる血管新生への関与の分子機構ならびにがんなどの疾病への関与と治療への新しい展開について討論する。

38.　心臓大血管形成の分子生物学

世話人：三浦直行（浜松医大）、栗原裕基（東大・院医）

心臓大血管は胎生期に複雑な過程を経て形成される。それゆえに、先天性奇形も出生児の１％と多いが、心臓大血管形成の分子機構についてはほとんどわかっていないのが現状である。しかし、近年の分子生物学と発生工学の進歩により、心臓の左右を決定する遺伝子群や心大血管形成に重要な役割を果たす心臓神経堤に関わる遺伝子群などが単離され、トランスジェニックマウスやノックアウトマウスを用いて、ダイナミックな心臓大血管形成過程が明らかにされつつある。本ワークショップでは、心臓大血管形成の分子メカニズムの解明を意欲的に行っている研究者に最新のデータを発表していただく。

39.　「遺伝子病の分子遺伝学」のトピックス

世話人：名和田新（九大・院医）、加藤茂明（東大・分生研）

分子生物学のめざましい進歩は、基礎医学より臨床医学へ非常に大きなインパクトを与え、今迄困難であった病気の病因および病態が遺伝子レベルより急速に解明され始めている。これは病気の遺伝子診断のみならず、病気の予防および遺伝子治療への道へと展開し、基礎医学と臨床医学の接点として今後益々発展して行く領域であると考えられる。本ワークショップでは最近日本においてこの領域で極めて秀れた成果をあげておられる６人の先生方に講演をいただき、その研究の意義と今後の展望について討論していただく。

40.　骨粗鬆症の分子生物学

世話人：野田政樹（東京医歯大・難治研）、宮園浩平（癌研）

骨粗鬆症は現代の社会の高齢化とともに、急増する老化にともなう重要な疾患の一つである。本症で

は骨量の減少により、骨の脆弱化を生じ、骨折の増大に至るが、その病理学的基盤の解明に向けての骨形成および骨吸収とそのバランスを司るメカニズムの分子的機構の解明の研究はこの領域で進展の著しい分野の一つである。今回は骨形成・骨吸収に関わる細胞群である、骨芽細胞および破骨細胞の分化ならびに増殖を制御する分子群の最近の研究を中心に、細胞内シグナルに関わる分子群・転写因子・細胞間シグナルの分子機構、細胞外マトリックス蛋白による骨の細胞機能制御の分子機構について討論を行う。

41. インスリン分泌の分子生物学

世話人：門脇　孝（東大・院医）、清野　進（千葉大・院医）

膵β細胞からのインスリン分泌は個体のグルコースホメオスターシスにとって必須である。分子生物学や発生工学の発展により、インスリン分泌の詳細な分子メカニズムが明らかとなってきた。また、分子遺伝学やヒトゲノムプロジェクトの進展に支えられて、糖尿病の原因となる膵β細胞異常が解明されつつある。本ワークショップでは、これら最新の知見をもとに、インスリン分泌機構解明の状況と今後の課題について討論したい。

42. 突然変異マウスによる遺伝子機能解析 —最近の進歩—

世話人：勝木元也（東大・医科研）、野田哲生（東北大・院医）

マウス個体の遺伝子操作は、標的遺伝子の破壊による突然変異の自在な創造に留まらず、標的遺伝子の時期特異的、組織特異的、また、細胞特異的な操作にまで拡がった。また、機能的にきわめて類似した遺伝子が重複して存在する場合には、類似のすべての遺伝子をノックアウトする必要も出てきた。そして、マウスゲノムが明らかになるに伴い、表現型(突然変異)から遺伝子を単離する試みも始まった。これらについて討論する。

43. 創薬に向けた分子生物学

世話人：関水和久（九大・院薬）、桑野信彦（九大・院医）

DNA の構造と機能に関する分子生物学の方法論を医薬品の創製に応用しようとする試みが盛んに行われている。しかしながら一方では、その有用性について疑問の声もあがっている。本ワークショップでは、細胞増殖のコントロールを目指して第一線で研究を展開されている、大学並びに製薬企業の研究者に、最新の成果を発表していただき、日本分子生物学会員が創薬について考える場を提供したい。

44. パラサイトの戦略と分子進化 —宿主・病原体共進化研究のフロンティア—

世話人：厳佐　庸（九大・院理）

宿主と病原体の共進化に関与する遺伝子の解明が進んだことにより、分子レベルの知識をもとにして疫学および共進化のプロセスを語ることが可能になってきた。このシンポジウムでは最近注目されている以下のトピックスの紹介をつうじて、分子生物学的な発見と、疫学・生態学レベルの進化動態の解明とが密接に関連していることを示したい。

（記入例）

第22回 日本分子生物学会年会 発表申込書

演題番号＊　　　　　受付番号＊

連絡先　　氏名　中島　信孝
住所（〒 812-8582）
福岡市東区馬出3-1-1
九州大学大学院医学系研究科
分子生命科学
TEL （092） 642-6177
FAX （092） 642-6183
E-mail
nobutaka@molbiol.med.
kyushu-u.ac.jp

本年度会費領収書コピー貼付位置

（切離さないこと）

人名索引編集用カード

演題番号＊　　　　　受付番号＊

	ひらがな		漢字	
	Family Name	First Name	Family Name	First Name
1	なかしま	のぶたか	中島	信孝
2	はやし	なおゆき	林	直之
3	のぐち	えいし	野口	英史
4			Gray	Thomas C.
5	にしもと	たけはる	西本	毅治
6				
7				
8				
9				
10				

（記入例）

第22回 日本分子生物学会年会 講演要旨用紙

演題番号＊　　　　　受付番号＊

ワークショップ	希望します（希望番号 19 ）。希望しません。
ポスター発表	第一希望分野 5 b，第二希望分野 4 a， 関連演題順序 “出芽酵母 GSP1 の温度感受性変異株” °沖　昌也の次
キーワード	染色体凝縮　　核輸送　　G タンパク質

この部分は写真印刷です。曲げたり、汚したりしないで下さい。

演題名
氏　名
（所属略記）
Title
Name
（Affiliation）

Gsp1p-GTPase cycle に関与する 2 つの低分子量蛋白質 Gtr1, Gtr2
°中島信孝[1]，林　直之[2]，野口英史[1]，Thomas C. Gray[3]，西本毅治[1]（[1]九大・院医・分子生命，[2]金沢大・がん研，[3]Cambridge Univ., UK）
Two G proteins, Gtr1 and Gtr2, are involved in Gsp1p-GTPase cycle
°Nobutaka NAKASHIMA[1], Naoyuki HAYASHI[2], Eishi NOGUCHI[1], Thomas C. GRAY[3], Takeharu NISHIMOTO[1] ([1]Dept. of Mol. Biol. Grad. Sch. of Med. Sci., Kyushu-Univ., [2]Cancer Res. Inst., Kanazawa Univ., [3]Dept. of Biochem., Cambridge Univ., UK)

出芽酵母の Prp20p はクロマチンに存在する蛋白質で、核内低分子量 G 蛋白質 Gsp1p に対するグアニンヌクレオチド交換因子として働く。この Gsp1p-GTPase cycle は細胞周期において M 期の開始や M 期からの脱出、S 期の開始などに関与していて、さらには核蛋白質の核内輸送、mRNA の核外輸送などの多様な核内現象に……

第22回　日本分子生物学会年会

宿泊ホテル・割引航空券等のご案内

標記学会年会が福岡市で開催されますことを心からお祝い申し上げます。

日通旅行〔日本通運㈱福岡旅行支店〕では今回の学会年会ご参加の皆様方のご便宜を図るため、特別割引料金の宿泊ホテルおよび航空券をお世話させていただくことになりました。

会員の皆様には是非お誘い合わせのうえ、多くの方のご利用とお早めのご予約をお願い申し上げます。

会　　期：平成11年12月7日（火）～10日（金）

会　　場：福岡市中央区百道（ももち）地区

シーホークホテル＆リゾート、福岡ドーム、国立病院九州医療センター

福岡 SRP センタービル

1．宿泊ホテルのご案内〔平成11年12月6日㈪～11日㈯〕

★宿泊料金はシングル、ツイン、トリプルルームともそれぞれ定員ベースでお泊まりいただいた場合の**朝食付き、サービス料込み、税金込み**の1泊・お一人様あたりの料金です。

★会場までの交通

バス利用の場合／博多地区・天神地区より、都市高速道路経由で約10分、料金220円

地下鉄利用の場合／福岡空港・博多駅・祇園・中洲・天神の各駅から唐人町駅まで

それぞれ約17分・11分・10分・8分・6分です。料金はそれぞれ250円・250円・250円・200円です。唐人町駅から会場まで徒歩で約15分です。

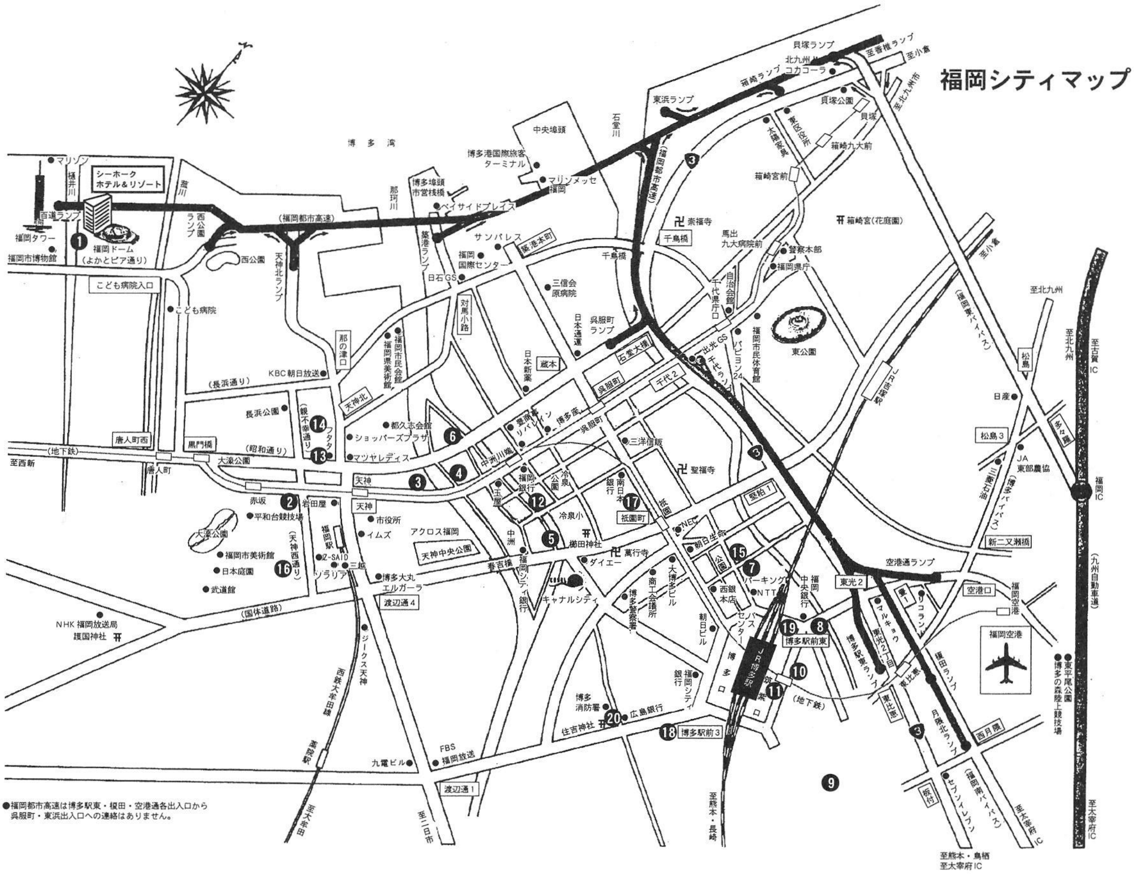
《宿泊ホテル》

（単位：円）

クラス	地域	地図No.	ホテル名	シングル 料金	シングル 申込記号	ツイン 料金	ツイン 申込記号
A	ももち	1	シーホークホテル＆リゾート	9,900	A1	9,500	AA1
	天神	2	西鉄グランドホテル	12,000	A2	11,000	AA2
		3	博多東急ホテル	12,000	A3	11,000	AA3
	中洲	4	東京第一ホテル	10,000	A4	9,000	AA4
		5	博多中洲ワシントンホテル	10,000	A5	8,800	AA5
B	中洲	6	デュークスホテル中洲	8,800	B1	7,800	BB1
	博多駅	7	プレジデントホテル博多	8,400	B2	―	―
		8	東洋ホテル	8,300	B3	7,500	BB3
		9	グランパークホテル博多	8,100	B4	7,500	BB4
C	博多駅	10	サンライフホテル	7,800	C1	7,000	CC1
		11	ホテルセンチュリーアート	7,800	C2	6,800	CC2
	中洲・川端	12	冷泉閣ホテル川端店	7,800	C3	6,400	CC3
	天神	13	ホテルアセント福岡	7,700	C4	7,300	CC4
		14	アークホテル博多本館	7,600	C5	6,900	CC5
	博多駅	15	冷泉閣ホテル駅前店	7,400	C6	5,900	CC6
	天神	16	プラザホテル天神	7,300	C7	7,000	CC7
	博多駅	17	ホテルスカイコート博多	7,300	C8	6,300	CC8
		18	博多パークホテル	7,300	C9	6,800	CC9
		19	博多グリーンホテル	7,300	C10	5,650	CC10
		20	ホテル法華倶楽部	7,200	C11	6,200	CC11

＊上記のホテルは「朝食なし」の料金も対応いたします。またトリプルルーム使用も可能です。ご希望の場合は「申込書」の通信欄にご記入下さい。
＊上記以外のホテルをご希望でしたら「申込書」の通信欄にご希望のホテル名（シングルまたはツインの区別、朝食付き・なしの区別）をご記入下さい。
＊お申込みのホテルが満室の場合は別のホテルをご案内させていただきます。

宿泊ホテル概略図



地図	ホ　テ　ル　名	会場までの交通機関・所要時間
①	**シーホークホテル＆リゾート**	天神、博多駅からバスで約10分、会場地
②	**西鉄グランドホテル**	天神の中心にあり、交通至便、天神からバスで会場まで約10分
③	**博多東急ホテル**	天神の中心にあり、交通至便、天神からバスで会場まで約10分
④	**東京第一ホテル**	バス、地下鉄の「中洲」まで徒歩1分、天神まで徒歩7分
⑤	**博多中洲ワシントンホテル**	「キャナルシティ博多前」バス停から会場まで約10分
⑥	**デュークスホテル中洲**	中洲まで徒歩2分、天神まで徒歩7分、天神からバスで会場まで約10分
⑦	**プレジデントホテル博多**	バス、地下鉄の「祇園」まで徒歩2分、バス停「祇園」から会場まで約10分
⑧	**東洋ホテル**	博多駅まで徒歩2分、交通至便、博多駅からバスで会場まで約10分
⑨	**グランドパークホテル博多**	博多駅までホテルの送迎専用バスで5分、博多駅からバスで会場まで約10分
⑩	**サンライフホテル**	博多駅まで徒歩1分、交通至便、博多駅からバスで会場まで約10分
⑪	**ホテルセンチュリーアート**	博多駅まで徒歩1分、交通至便、博多駅からバスで会場まで約10分
⑫	**冷泉閣ホテル川端店**	バス・地下鉄の「中洲・川端」まで徒歩2分、天神まで徒歩10分
⑬	**ホテルアセント福岡**	天神の中心にあり、交通至便、天神からバスで会場まで約10分
⑭	**アークホテル博多本館**	天神の中心にあり、交通至便、天神からバスで会場まで約10分
⑮	**冷泉閣ホテル駅前店**	バス、地下鉄の「祇園」まで徒歩2分、バス停「祇園」から会場まで約10分
⑯	**プラザホテル天神**	天神にあり、中心まで徒歩5分、天神からバスで会場まで約10分
⑰	**ホテルスカイコート博多**	博多駅まで徒歩5分、バス・地下鉄の「祇園」まで徒歩2分、バス停「祇園」から会場まで約10分
⑱	**博多パークホテル**	博多駅までバスで3分、徒歩7分、博多駅からバスで会場まで約10分
⑲	**博多グリーンホテル**	博多駅まで徒歩1分、交通至便、博多駅からバスで会場まで約10分
⑳	**ホテル法華倶楽部**	博多駅までバスで4分、徒歩で10分、博多駅からバスで会場まで約10分

2. 割引航空券のご案内

（A）団体設定便割引航空券

★団体設定便は、団体用特別割引運賃を適用しておりますので、各便とも原則として15名様以上のお申し込みがあった場合に適用となります。

★お申し込み人数が15名様に満たない場合は、便のご変更をお願いするか、団体設定便割引運賃より、割増運賃でのご案内となりますので、予めご了承ください。

★団体便の決定は締切日以降とさせていただきます。その後の「JALの前売券」や「ANAの早割券」等の事前購入割引航空券、また特定便割引券（特売りきっぷ、特割きっぷ、割特きっぷ）への変更は、日付によりお取り扱いできない場合がございます。

★今後、航空会社の運賃施策は変更が生じることもありますので、予めご了承お願いいたします。

○東京⟷福岡　（片道普通運賃 27,050円）　団体設定便　運賃 14,900円～16,300円　(割引運賃：円)

〔往　路〕東　京 → 福　岡（約1時間45分）

搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号
12/6	月	13：00 → 13：45	14,900	TF61
		15：40 → 17：05	16,300	TF62
		17：00 → 18：45	〃	TF63
		19：05 → 20：50	〃	TF64
12/7	火	08：30 → 10：15	14,900	TF71
		10：45 → 12：30	〃	TF72
		13：00 → 14：45	〃	TF73
12/8	水	08：30 → 10：15	14,900	TF81
		10：45 → 12：30	〃	TF82

〔復　路〕福　岡 → 東　京（約1時間25分）

搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号
12/9	木	17：10 → 18：35	14,900	FT91
		19：35 → 21：00	〃	FT92
		21：10 → 22：35	〃	FT93
12/10	金	15：40 → 17：05	14,900	FT101
		17：10 → 18：35	〃	FT102
		19：35 → 21：00	〃	FT103
		21：10 → 22：35	〃	FT104
12/11	土	10：40 → 12：05	14,900	FT111
		15：40 → 17：05	〃	FT112
		19：35 → 21：00	〃	FT113
		21：10 → 22：35	〃	FT114

○関西⟷福岡　（片道普通運賃 15,800円）　団体設定便　運賃 10.300円～11,900円　(割引運賃：円)

〔往　路〕関　西 → 福　岡（約1時間10分）

搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号
12/6	月	16：30 → 17：40	11,100	KF61
		19：15 → 20：25	〃	KF62
12/7	火	09：05 → 10：15	11,900	KF71
		16：30 → 17：40	11,100	KF72
12/8	水	09：05 → 10：15	11,900	KF81
		16：30 → 17：40	11,100	KF82

〔復　路〕福　岡 → 関　西（約1時間）

搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号
12/9	木	13：55 → 14：55	10,300	FK91
12/10	金	08：30 → 09：30	11,900	FK101
		13：55 → 14：55	10,300	FK102
		18：30 → 19：30	11,900	FK103
12/11	土	08：30 → 09：30	11,900	FK111
		13：55 → 14：55	10,300	FK112
		18：30 → 19：30	11,900	FK113

○伊丹⟷福岡　（片道普通運賃 15,800円）　団体設定便　運賃 10,300円～14,300円　(割引運賃：円)

〔往　路〕伊　丹 → 福　岡（約1時間10分）

搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号
12/6	月	08：35 → 09：45	11,900	IF61
		10：50 → 12：00	11,100	IF62
		17：10 → 18：20	11,900	IF63
		20：15 → 21：25	11,100	IF64
12/7	火	08：35 → 09：45	11,900	IF71
		10：50 → 12：00	11,100	IF72
		17：10 → 18：20	11,900	IF73
12/8	水	08：35 → 09：45	11,900	IF81
		10：50 → 12：00	11,100	IF82

〔復　路〕福　岡 → 伊　丹（約1時間05分）

搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号
12/9	木	16：00 → 17：05	10,300	FI91
		18：25 → 19：30	11,900	FI92
12/10	金	10：00 → 11：05	11,900	FI101
		16：00 → 17：05	10,300	FI102
		18：25 → 19：30	14,300	FI103
12/11	土	10：00 → 11：05	11,900	FI111
		16：00 → 17：05	10,300	FI112
		18：25 → 19：30	11,900	FI113

○名古屋⟷福岡　（片道普通運賃 18,600円）団体設定便　運賃 9,000円〜12,500円（割引運賃：円）

〔往　路〕名古屋 → 福　岡（約1時間25分）					〔復　路〕福　岡 → 名古屋（約1時間10分）				
搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号	搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号
12/6	月	08：35 → 10：00 17：40 → 19：05 20：00 → 21：25	10,300 12,500 9,000	NF61 NF62 NF63	12/9	木	07：35 → 08：45 18：50 → 20：00	9,000 10,300	FN91 FN92
12/7	火	08：35 → 10：00 17：40 → 19：05 20：00 → 21：25	10,300 12,500 9,000	NF71 NF72 NF73	12/10	金	07：35 → 08：45 18：50 → 20：00 19：40 → 20：50	9,000 10,300 12,500	FN101 FN102 FN103
12/8	水	08：35 → 10：00 17：40 → 19：05 20：00 → 21：25	10,300 12,500 9,000	NF81 NF82 NF83	12/11	土	07：35 → 08：45 18：50 → 20：00 19：40 → 20：50	9,000 10,300 12,500	FN111 FN112 FN113

○札幌⟷福岡　（片道普通運賃 38,400円）団体設定便　運賃 15,400円〜18,000円（割引運賃：円）

〔往　路〕札　幌 → 福　岡（約2時間35分）					〔復　路〕福　岡 →札　幌（約2時間10分）				
搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号	搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号
12/6	月	12：15 → 14：50 14：50 → 17：25	15,400 18,000	SF61 SF62	12/9	木	11：05 → 13：15	15,400	FS91
12/7	火	12：15 → 14：50 14：50 → 17：25	15,400 18,000	SF71 SF72	12/10	金	11：05 → 13：15	15,400	FS101
12/8	水	12：15 → 14：50 14：50 → 17：25	15,400 18,000	SF81 SF82	12/11	土	11：05 → 13：15	15,400	FS111

○沖縄⟷福岡　（片道普通運賃 20,400円）団体設定便　運賃　10,200円（割引運賃：円）

〔往　路〕沖　縄 → 福　岡（約1時間35分）					〔復　路〕福　岡 → 沖　縄（約1時間40分）				
搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号	搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号
12/6	月	13：40 → 15：15 15：25 → 17：00	10,200 10,200	OF61 OF62	12/9	木	10：25 → 12：05 15：25 → 17：05 17：40 → 19：20	10,200 〃 〃	FO 91 FO 92 FO 93
12/7	火	07：45 → 09：20 11：30 → 13：05 13：40 → 15：15	10,200 〃 〃	OF71 OF72 OF73	12/10	金	10：25 → 12：05 15：25 → 17：05 17：40 → 19：20	10,200 〃 〃	FO 101 FO 102 FO 103
12/8	水	07：45 → 09：20 11：30 → 13：05 13：40 → 15：15	10,200 〃 〃	OF81 OF82 OF83	12/11	土	10：25 → 12：05 15：25 → 17：05 17：40 → 19：20	10,200 〃 〃	FO 111 FO 112 FO 113

○仙台⟷福岡　（片道普通運賃 32,150円）団体設定便　運賃 17,800円〜19,500円（割引運賃：円）

〔往　路〕仙　台 → 福　岡（約2時間10分）					〔復　路〕福　岡 → 仙　台（約1時間40分）				
搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号	搭乗日		発着時間	割引運賃	申込記号
12/6	月	08：15 → 10：25 13：30 → 15：40 17：50 → 20：00	19,500 〃 17,800	DF61 DF62 DF63	12/9	木	11：15 → 12：55 17：20 → 19：00	19,500 17,800	FD91 FD92
12/7	火	08：15 → 10：25 13：30 → 15：40 17：50 → 20：00	19,500 〃 17,800	DF71 DF72 DF73	12/10	金	08：25 → 10：05 11：15 → 12：55 17：20 → 19：00	19,500 〃 17,800	FD101 FD102 FD103
12/8	水	08：15 → 10：25 13：30 → 15：40 17：50 → 20：00	19,500 〃 17,800	DF81 DF82 DF83	12/11	土	08：25 → 10：05 11：15 → 12：55 17：20 → 19：00	19,500 〃 17,800	FD111 FD112 FD113

○小松⟷福岡　（片道普通運賃 24,150円） 団体設定便　運賃 15,600円～18,000円 （割引運賃：円）

〔往　路〕小　松 → 福　岡（約1時間25分）					〔復　路〕福　岡 →小　松（約1時間10分）				
搭乗日		発着時間	**割引運賃**	申込記号	搭乗日		発着時間	**割引運賃**	申込記号
12／6	**月**	10：50 → 12：15 18：45 → 20：10	**18,000** **15,600**	MF61 MF62	**12／9**	**木**	09：10 → 10：20 17：05 → 18：15	**18,000** **15,600**	FM91 FM92
12／7	**火**	10：50 → 12：15 18：45 → 20：10	**18,000** **15,600**	MF71 MF72	**12／10**	**金**	09：10 → 10：20 17：05 → 18：15	**18,000** **15,600**	FM101 FM102
12／8	**水**	10：50 → 12：15 18：45 → 20：10	**18,000** **15,600**	MF81 MF82	**12／11**	**土**	09：10 → 10：20 17：05 → 18：15	**18,000** **15,600**	FM111 FM112

(B)「事前購入割引航空券（いわゆる前売券）」

割引率は購入日によって異なります。ご利用条件は次の通りです。
下表は日本航空の割引率です。事前購入割引便の設定と割引率は航空会社により異なります。
一部を除いて全区間、全便ご利用できます。購入時期が早い程、割引率は高いです。予約できる座席数は限られていますので、できるだけ早目に予約する必要があります。

	前売２８		前売２１		前売１４	
割引率	平日	金･土･日･祝日	平日	金･土･日･祝日	平日	金･土･日･祝日
	約50％	約35％	約30％	約20％	約20％	約15％
予約できる日	ご搭乗の28日前まで		ご搭乗の21日前まで		ご搭乗の14日前まで	
予約変更	不可					
取消料（予約後の取消）	50％		35％		25％	
払い戻し手数料	４２０円					

(C)「特定便割引航空券（いわゆる特売きっぷ）」

割引率は割引対象便が特定されており、利用便によって異なります。割引率は10％～49％です。ご利用できる区間は福岡↔東京、関西、伊丹、名古屋、沖縄、釧路、秋田、仙台、福島、新潟、富山、小松、松山、宮崎、鹿児島です。
ご予約は2ヶ月前から前日までです。航空券は予約日を含め4日以内にお買い求めいただくものです。予約できる座席数は限りがあります。ご予約の変更はできません。払い戻しの際は払い戻し手数料として420円がかかります。

(D)「一般航空券」のご予約もお取扱いいたします。

★「事前購入割引航空券（いわゆる前売券）」、「特定便割引航空券（いわゆる特売きっぷ）」、「一般航空券」のご予約ご希望の方は申込書の通信欄に**航空券の種別、ご搭乗者名、年令、性別、日付、区間、ご希望発着時間**を具体的にご記入下さい。

- ご利用条件、取消料等は航空会社の規定に基づきます。
- 団体設定便割引航空券との重複予約はお受けできません。
- 満席の場合はご希望に添えないこともありますので、ご了承ください。

★上記の割引航空券は1999年4月20日現在の航空会社の運賃施策です。今後運賃改訂等により、割引率が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

■取消料について

★宿泊ホテルご予約の取消料

宿泊日の14日前以降4日前まで	宿泊日の3日前以降、前日まで	宿泊当日	無連絡の場合
５００円	宿泊料の３０％	宿泊料の８０％	宿泊料の１００％

★団体設定便割引航空券の取消料（片道）

お申し込み後、お客様のご都合でご予約を取り消された場合は、1名様1件につき下記の取消料をいただきます。

区間　　取消料	航空機利用の14日前以降4日前まで	航空機利用の3日前以降、当日
大阪／福岡間、名古屋／福岡間	3，000円	5，000円
東京／福岡間、沖縄／福岡間、小松／福岡間	4，000円	7，000円
札幌／福岡間、仙台／福岡間	5，000円	9，000円

・「14日前」「3日前」に当たる日が土・日・祝日の場合はその前の平日より取消しの対象となりますのでご注意ください。

・団体設定便割引航空券は変更の場合も、取消料対象日になりましたら取り消し扱いとなり、取消料がかかりますので、ご注意ください。

★取り消し等によりご返金が生じた場合は、銀行振込にてご返金いたします。その際振込手数料実費を差し引かせていただきますので、ご了承ください。なお、ご返金は学会終了後、1ヶ月をめどにご返金させていただきます。

3. 国内旅行傷害保険のご案内

12月6日～12月11日の間で家を出られてからお帰りまでのご旅行期間中、下記の内容にてお取り扱いしております。申込書にご希望のタイプをご記入下さい。（7日間有効）

		Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
補償内容	死亡・後遺症害	4,184万円	2,456万円	1,229万円
	入院（日額）	12,000円	9,000円	4,500円
	通院（日額）	8,000円	6,000円	3,000円
保険料		1,800円	1,200円	600円

※お申込み頂いた国内旅行傷害保険に関しまして、予約確認書に契約書番号が明記されますので、旅行修了まで大切に保管しておいて下さい。なお、保険契約はご入金確認後有効となります。

※78歳以上の方は、補償内容が異なりますのでお問い合わせ下さい。

■ お申込み方法

★お申込み：「申込書」に必要事項をご記入の上、**FAX又は郵送にて早目に**お申込みください。お電話でのお申込みはトラブルの原因となりますのでご遠慮ください。

★ご予約の回答：締切日以降、ご予約の回答をご連絡申し上げます。予約確認書と航空券と振込用紙をご利用の約1週間前にお送りします。

★通信諸経費：通信諸経費としてお一人様につき500円を申し受けますので、ご了承お願いいたします。

★お支払い方法：予約確認書、航空券、振込用紙が届きましたら、5日以内に銀行振込又は現金書留でお支払いください。

★お振込先：
振込先銀行名／福岡銀行本店
振込先口座名／日本通運㈱福岡航空支店　当座預金№19556

●クレジットカードでお支払いの場合は「申込書」のお支払い方法の欄のクレジットカードに☑印を付けてください。後日、カード名、カード番号、有効期限、カード使用者名とカード使用者のご署名をいただく手続きのご連絡をさせていただきます。

■お申込み受付期間

1999年（平成11年）11月5日（金）までにお願いいたします。

■お申込み・お問い合せ先

日通旅行〔日本通運株式会社 福岡旅行支店・旅行第一課〕

TEL 092－721－3335／FAX 092－761－6124

〒810-0001 福岡市中央区天神2-12-1　天神ビル3階

（営業時間：平日／09:00～18:00　定休日／土・日・祝日）

第22回日本分子生物学会年会

宿泊ホテル・航空券申込書

受付日	番号
／	No.

★お申込みの控えとして必ずコピーをお取り下さい。

お申込代表者氏名	（所属先）	お支払い方法 □銀行振込み □現金書留 □クレジットカード
郵便物送付先　住所 （□ 勤務先 □ 自宅） ＊どちらか該当する方に☑をつけて下さい。	〒	
昼間の通信連絡先 （□ 勤務先 □ 自宅） ＊どちらか該当する方に☑をつけて下さい。	TEL（　　）　－　　　　FAX（　　）　－	

（ふりがな） お名前			宿泊									航空機 往路				航空機 復路				国内旅行傷害保険
	性別	年齢	申込記号	12/6(月)	12/7(火)	12/8(水)	12/9(木)	12/10(金)	/	部屋タイプ		申込記号	搭乗日	発地	着地	申込記号	搭乗日	発地	着地	タイプ
(例) ふくおか たろう 福岡太郎	㊚ 女	50才	C5	○	○	○	○			Ⓢ		TF62	12/6	東京	福岡	FT103	12/10	福岡	東京	A・Ⓑ・C
	男 女	才								S	T									A・B・C
	男 女	才								S										A・B・C
	男 女	才								S	T									A・B・C
	男 女	才								S										A・B・C

＊お申込み欄が不足の場合は、この申込用紙をコピーしてご利用お願いします。
＊宿　泊：ご希望の宿泊日の欄に○印を記入して下さい。
部屋タイプ／Sはシングルルーム、Tはツインルームです。
ツインルーム利用の場合は同室者と組み合わせてご記入下さい。
ご案内以外の宿泊ホテルをご希望の方はホテル名をご記入下さい。
＊航空機：団体設定便希望の方は記号、搭乗日、発着地をご記入下さい。
団体設定便以外の便を希望の際は、割引航空券の種別・日付・区間・出発時間を通信欄にご記入下さい。
＊国内旅行傷害保険の希望タイプＡ・Ｂ・Ｃのいずれかを○で囲んで下さい。

通信欄：

日通旅行㈱〔日本通運㈱福岡旅行支店 旅行第一課〕 〒810-0001 福岡市中央区天神2-12-1 天神ビル3F TEL 092－721－3335 FAX 092－761－6124

◆学会費（年度会費）納入についてのお願い

1. 1999年度分および未納分の学会費を1998年12月にお送りした請求書（郵便振替用紙）により下記の通り納入して下さい。なお、学生会費を納入される方は、細則第２条により、在学証明書（学生証のコピー可）を日本学会事務センター（東京）へ提出して下さい。

   正会員学会費　4,500円、学生会員学会費　3,000円

   学会費の納入に際しては年会参加費と混同しないようにお願いします。
2. 年会の発表申込みには、学会費納入控（または領収書）のコピーを添付することが必要です。発表を希望される方は、学会費納入控（または領収書）を保管しておいて下さい。

◆日本分子生物学会への入会申込みの手順について

日本分子生物学会に入会を希望される方は、書面または電話により下記宛お申込み下さい。所定の書式をお送りします。なお、年会の演題締切時期（７月～８月）は入会者が多く混雑いたしますので、早目の入会手続きをお勧めします。

〒113-8622　東京都文京区本駒込 5-16-9　学会センター C21
㈶日本学会事務センター・会員業務　日本分子生物学会　係
TEL (03) 5814-5810　FAX (03) 5814-5825

◆新入会の WWW 受付について

Internet で新入会の手続きができる Web site の開設準備を進めています。

カットオーバーは本年７月中旬、URL は http: //bunshi.bcasj.or.jp/ を予定していますのでご利用下さい。

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会推薦の研究助成、学術賞について次の方々が採択されました。

1．第25回（平成10年度）日産科学振興財団学術研究助成

平野伸二（愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所 研究員）プロトカドヘリンQのシナプス局在とアイソフォームの役割

張　秋梅（京都大学大学院理学研究科 助手）酸化的塩基損傷に作用する新しいDNA修復酵素に関する研究

丹羽仁史（大阪大学医学部 助手）胚幹細胞のフィーダー非依存性無血清培養システムの確立

2．第7回木原記念財団学術賞

石浦正寛（名古屋大学大学院理学研究科 助教授）

近藤孝男（名古屋大学大学院理学研究科 教授）

藍色細菌（藍藻）の生物時計の分子生物学的研究（共同受賞）

選考委員会の審査に基づいて、下記の方々を1999年度山田科学振興財団研究援助に推薦いたしました。

芝　清隆（癌研究所細胞生物部 主任研究員）超高分子複合体形成に伴うヒトアミノアシルtRNA合成酵素の新たな機能の獲得

和賀　祥（大阪大学微生物病研究所 助教授）真核生物における染色体DNA複製開始の分子機構の解明

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞・研究助成は、会報No. 62に一覧として掲載しています。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会の審査によって行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1．提出物

1）本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）

2）本学会の5名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）

3）申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2．提出先

日本分子生物学会　選考委員長　花岡文雄

〒565-0871　吹田市山田丘1-3

大阪大学細胞生体工学センター

FAX (06)6877-9382

3．提出期限

財団等の締切りの1カ月前まで。提出期限後に受け取った場合や、提出書類が不備な場合は選考の対象にならないことがあります。

◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○千里ライフサイエンス技術講習会第19回 「DNAチップの最新技術（I）—超高密度オリゴヌクレオチドアレイによる遺伝子発現解析—」

日　時：1999年6月24日（木）13：00～17：00
場　所：千里ライフサイエンスセンタービル5階
　　（豊中市新千里東町1-4-2）
主　催：㈶千里ライフサイエンス振興財団
協　賛：アマシャム ファルマシア バイオテク㈱
　　㈱千里ライフサイエンスセンター
内　容：
1. Affymetrix社製Gene Chipシステムの概要
2. チップの製造技術
3. 遺伝子発現解析のためのサンプル調製法
4. Gene Chipシステムでのデータ解析
5. 操作実習

定　員：30名
参加費：3,000円
申込締切日：1999年6月11日（金）財団必着

申込方法：
　氏名、勤務先、所属、役職名、所在地、〒、TEL、FAXを明記のうえ、郵便、FAXまたは電子メールで下記宛お申込み下さい。参加費はお申込み後に大和銀行本店公務部普通預金No. 3093240財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛にお振込み下さい。お振込みの際、振込者名の前にG19とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付します。

申込先：
㈶千里ライフサイエンス振興財団 技術講習会係
〒565-0082 豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル8階
TEL（06）6873-2001、FAX（06）6873-2002
E-mail: senrilsf@commercecity.or.jp
URL http://www.commercecity.or.jp/senri_lsf

○千里ライフサイエンス技術講習会第20回 「プロテオミクス解析：タンパク質の同定と構造解析—二次元電気泳動法を中心に—」

日　時：1999年6月25日（金）13：00～17：00
場　所：千里ライフサイエンスセンタービル9階
　　（豊中市新千里東町1-4-2）
主　催：㈶千里ライフサイエンス振興財団
協　賛：アマシャム ファルマシア バイオテク㈱
　　㈱千里ライフサイエンスセンター
内　容：
1. プロテオミクス解析の概要
2. 二次元電気泳動法について
3. タンパク質の構造解析
4. 画像解析とデータ処理法
5. 操作実習

定　員：30名
参加費：3,000円
申込締切日：1999年6月11日（金）財団必着

申込方法：
　氏名、勤務先、所属、役職名、所在地、〒、TEL、FAXを明記のうえ、郵便、FAXまたは電子メールで下記宛お申込み下さい。参加費はお申込み後に住友銀行本店公務部普通預金No. 6262財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛にお振込み下さい。お振込みの際、振込者名の前にG20とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付します。

申込先：
㈶千里ライフサイエンス振興財団 技術講習会係
〒565-0082 豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル8階
TEL（06）6873-2001、FAX（06）6873-2002
E-mail: senrilsf@commercecity.or.jp
URL http://www.commercecity.or.jp/senri_lsf

○千里ライフサイエンスセミナー「免疫システムとケモカイン」

日　時：1999年7月1日（木）10：00～17：00
場　所：千里ライフサイエンスセンタービル5階
　　ライフホール（豊中市新千里東町1-4-2）
主　催：㈶千里ライフサイエンス振興財団
協　賛：㈱千里ライフサイエンスセンター
コーディネータ：松島綱治（東大・医）
プログラム：
1. ケモカインoverview: 炎症から免疫制御分子としてのケモカイン　松島綱治（東大・医）
2. 新規ケモカイン・ケモカイン受容体　義江　修（近畿大・医）
3. 免疫細胞の動態制御機構—接着分子とケモカインのクロストーク—　宮坂昌之（阪大・医）
4. T細胞・樹状細胞のホーミング不全と免疫応答—SLC欠損pltマウスを用いて—　中野英樹（東邦大・医）
5. 腫瘍免疫とケモカイン　藤原大美（阪大・医）
6. 造血、血管形成に必須のケモカインSDF-1/PBSF　長澤丘司（大阪母子セ）

参加費（講演要旨集含む）：
会員（大学、官公庁、主催・協賛団体会員）：6,000円
非会員：8,000円
学　生：3,000円
定　員：200名
参加申込方法：
　①氏名、②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、TEL、FAXを明記のうえ、郵便またはFAXで下記宛お申込み下さい。参加費はお申込み後に大和銀行千里中央支店普通預金No. 4601085財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛にお振込み下さい。お振込みの際、振込者名の前にN2とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付します。

申込先：
㈶千里ライフサイエンス振興財団 セミナー係
〒565-0082 豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル8階
TEL（06）6873-2001、FAX（06）6873-2002
E-mail: senrilsf@commercecity.or.jp
URL http://www.commercecity.or.jp/senri_lsf

○第9回広島がんセミナー国際シンポジウム「Pediatric Tumors and Secondary Cancer」

日　時：1999年9月28日（火）9：30～15：10
場　所：広島国際会議場（広島市中区中島町1-5）
主　催：㈶広島がんセミナー

Keynote Lecture:

Second neoplasms in children: An overview
Anna T. Meadows
(The Childen's Hosp. of Philadelphia, USA)

Symposium:

1. Mammalian cell cycle control
   Ed Harlow (Massachusetts Gen. Hosp. Cancer Ctr., USA)
2. Second cancer risk following radiotherapy for childhood cancer
   Peter Inskip (Natl. Cancer Inst., USA)
3. Mechanism of leukemogenesis by MLL gene, a target for infantile leukemia and therapy-related leukemia
   Masao Seto (Aichi Cancer Ctr. Res. Inst., Japan)
4. Secondary leumekia following childhood cancer treatment
   Yukiko Tsunematsu (Natl. Children's Hosp., Japan)
5. Radiation-related leukemia–A cytogenetic and molecular genetic study–
   Nanao Kamada (Hiroshima Univ., Japan)

参加登録：事前登録要（参加費当日支払　5,000円）
問合先：
〒734-8551 広島市南区霞1-2-3
広島大学医学部第一病理内
第9回広島がんセミナー事務局（安井　弥）
TEL（082）257-5146、FAX（082）257-5149
http://www.convention.co.jp/hcs/

なお、今回は広島で行われる第58回日本癌学会総会（9/29～10/1）の前日です。ふるってご参加下さい。

○第9回アンチセンスシンポジウム

会　期：1999年11月24日（水）、25日（木）
会　場：国立京都国際会館（京都市左京区宝ケ池）
主　催：アンチセンスDNA/RNA研究会
共　催：交渉中
発表申込締切日：1999年7月30日（金）
予稿原稿締切日：1999年10月15日（金）
事前参加登録申込締切日：1999年11月5日（金）
発表形式および発表申込方法：

招待講演および一般発表：一般発表形式は口頭（30題程度、討論を含め20分程度）とポスター。A4判大の用紙に(1)演題、(2)所属、(3)氏名、(4)連絡先（住所、TEL、FAX、E-mail）、(5)200字程度の要旨、(6)希望の発表形式を明記し、下記事務局まで郵便でお申込み下さい。

参加登録費：

正会員	5,000円	（当日6,000円）
学生会員	2,500円	（当日3,000円）
非会員(一般)	6,000円	（当日7,000円）
(学生)	3,000円	（当日3,500円）

懇親会：一般5,000円、学生2,500円（予約制）

11月24日（水）18：00より国立京都国際会館宴会場（スワン）にて開催します。

参加登録予約申込方法：

氏名、所属、連絡先（〒、住所、TEL、FAX）を明記のうえ、郵便またはFAXにて事務局までお申込み下さい。参加費はお申込みと同時に、京都銀行下鴨支店普通預金No. 3090733 第9回アンチセンスシンポジウムにお振込み下さい。

事務局：
〒606-8585 京都市左京区松ケ崎御所海道町
京都工芸繊維大学繊維学部高分子学科
生体高分子情報研究室内
アンチセンスDNA/RNA研究会事務局（村上　章）
TEL/FAX（075）724-7814
E-mail:（事務局）asdna@ipc.kit.ac.jp
（村上章）akiram@ipc.kit.ac.jp
http://www.poly.kit.ac.jp/seijo/antisense.html

◆その他のお知らせ

○日本学術会議のホームページ

「日本学術会議だより」が、インターネットホームページ上に掲載されることになりました。「日本学術会議だより」は、春・秋の総会と日本学術会議主催講演会（年2回）を中心に発行されます。なお、現在、本ホームページ上には平成14（2002）年度共同主催国際会議の募集案内が掲載されています。日本学術会議ホームページアドレスは次の通りです。http://www.scj.go.jp

○BBRC Editor 増員について

BBRCに日本のeditorが増えました。Biochemical Biophysical Research Communicationsでは発表の迅速化のため投稿数の多い日本に4人目のeditorを置くことになり、大村恒雄九州大学名誉教授が就任されました。なお、大村教授は7月から審査を受付けます。大村教授は生体酸化反応、生体膜機能、細胞顆粒、ステロイド合成などが専門ですが、その他の分野の審査もされます。

大村教授へのご投稿住所は（〒811-3425 宗像市日の里7-17-7、FAX(0940) 36-2962）です。

BBRCには従来から日本の3名（香川靖雄、村松正実、市原　明）を含め世界に11名のeditorがおりますので（BBRC誌各号表紙裏参照のこと）、ご希望のeditorにふるってご投稿下さい。

○アマシャム ファルマシア バイオテク アンド サイエンス賞

アマシャム ファルマシア バイオテクは米科学雑誌サイエンス誌との協賛により、分子生物学分野で特に優れた学位取得後1年以内の若手研究者を支援する目的で、アマシャム ファルマシア バイオテク アンド サイエンス賞の授与を1995年より行っています。今年の最優秀賞は科学技術振興事業団研究員の野地博行氏に授与されました。最優秀賞に加え、ヨーロッパ、北米、日本の各地域から選ばれる優秀賞には理化学研究所研究員西中太郎氏が選出されました。

○Post-doctoral Position in Molecular and Cellular Biology

A unique opportunity exists for outstanding candidates to investigate the molecular mechanisms of protein trafficking through the early secretory pathway and to elucidate signal transduction pathways activated by the accumulation of unfolded protein in the lumen of the endoplasmic reticulum. Recent publications in these project areas from our laboratory include: Tirasophon *et al.* Genes & Dev 12: 1812, 1998; Welihinda *et al.* Mol Cell Biol 18: 1967, 1998; Nichols *et al.* Cell 93: 61, 1998; Pipe *et al.* J Biol Chem 273: 8537, 1998; Srivastava *et al.* J Biol Chem 273: 2416, 1998. Projects include biochemistry, molecular biology, cell biology, yeast and mammalian cell genetics, and gene ablation in murine ES cells. Qualified candidates should possess an M. D. or Ph. D. with lab experience in any or all of the above disciplines. Competitive salary commensurate with experience and qualifications.

Interested candidates should submit a curriculum vitae, list of publications, statement of relevant experience and professional goals, and three letters of recommendation to:

Dr. Randal J. Kaufman
MSRB II, room 4554
Department of Biological Chemistry
University of Michigan Medical Center
1150 W. Medical Center Dr.
Ann Arbor, MI 48109–0650
E-mail: kaufmanr @umich. edu

国内照会先：
森　和俊（HSP 研究所）
TEL（075）315–8656
E-mail: kazumori@hsp.co.jp

日本分子生物学会 会報

年３回刊行

第63号（1999年５月）

発　行：日本分子生物学会 庶務幹事

製　作：学会センター関西

㈶日本学会事務センター 大阪事務所